

# 港南剣友会報

48. 1. 1  
第1号  
高橋源町 8  
港南区大久保 6  
港南剣友会後援会  
(842) 0228

○ 新年おめでとうございます  
併せて皆さまのご多幸を  
お祈り申し上げます

昭和四十八年元旦

港南剣友会一同

○ 行事予定表 一月〜三月  
一月五日 慰霊堂前奉納試合  
一月四日 武道始  
二月 寒中稽古  
三月 水戸大会  
三月 級位格付審査



## 会誌発刊に寄す

港南剣友会長 紅文吉

このたび港南剣友会報が高橋後援会長のご発願によって発刊されることになったことを心からお喜び申し上げます。

剣道を学ぶ目的は人によっていろいろであると思いますが、私は幕末の名剣士島田見山（直心影流男谷静斎の高弟）が言ったという「心正しからざれば剣また正しからず」

すなわち正しい心を養うために剣を学ぶことを心がけてきました。また古来剣士の志すところとして「思無邪」ということが云われています。これはとは論語の言葉で、思いよこしまなしと読み、邪心を抱かないように心がけるといふ意味です。

剣の上ではたとへば柳生流では直くなる心、つ立つ剣位になる

より錬成につとめます。相手の動きに応じてそのまま直ぐに打ち込むことを至極の剣としております。私も柳生流十四代柳生殿長先生に教を受けたましたが、水年の悪いくせで振り上げた袋竹刀がそのままだ直ぐに打ち込めないで、剣尖がおどって打ち入るというので、随分となおされました。とうり合格出来ないうちに先生は亡くなられました。古流では真剣勝負ということを絶えず念願においてけいこするので、一瞬のおくれが生死の分れ目になるからでしょう。

また山岡鉄舟先生は「剣の妙を知ろうと思えば、元の初心にかえれ、初心には何の心もない、ただ一生懸命に相手に向って打ち込んで行けばかりだ。業の出来た人はあしより、こりしよりという心が邪魔して害となる。これを去るよりにつとめると剣の妙処がわかる」といつておられます。

正しい剣を習おうとつとめる基本に忠実に一ことによつて正しい心の人となることが出来ると思ひじております。私はこういふ心がけて皆さんと剣の道にいらしています。

わが剣友会から中学校、高校、大学、社会それぞれ場で優秀剣士が続々と果立っていかれることを希望することは勿論ですが、剣をとる機会のないような場合でも正しい、すなおな心をもつた人になるよう心がけてくださることを念願いたします。

## 後援会長 高橋源寿

風花も空の色にも初冬の色濃い季節となりました。このさびさす日々をますますお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて港南剣友会が桜岡小学校や港南中学校の体育館を道場として利用させていただいてから十月で満一年になります。その間剣道を愛好する少年少女の数は増加の一途をたどり、現在既に三百名を数えるまでに至り、これ以上の入門は当分おこわりする現状にあります。

私もともと浅学非才、剣道の心得とありません。ただこの地に住みついで、連合子供会長や、青少年指導員、はては民生委員、児童委員などの役職にあつたが故に組織の座にすわられたと思ひますが、もともと青少年が好きでその活動には惜しみなく犬馬の力を及ぼしてきました。剣道を学ぶ子供たちが、果直で且つ熱心である

こと、これを支援する父兄たちの愛情の深さにも頭の下がる思いがして、剣友会の働き、剣道への理  
解など父兄に知らせ、ともどもに  
よろしくおねがいします。

大人の善意と激励に

三百の少年剣士が彩った

### 第三回少年剣道錬成大会

後援会 高橋生

昭和四十七年十月八日(日)紺碧の空、さわやかな秋晴れ、わが少年剣士たちの朝が来た。

この日早朝から掃き清められた桜岡小学校体育館の壇上には国旗が掲揚され、場内左右には真新しい紅白の幕が張りめぐらされた中に高く掲げられた「少年剣道錬成大会」の大字が浮かび出されていた。中央には数々の賞品が並べられ、試合への胸の高なりを誘う。

午前九時、大太鼓の響きに、一同控室に待機。やがて行進曲「双頭の鷲の下に」がながれ、袴、鉢巻委の少年剣士たちが会旗を先頭に入場すれば、居並ぶ父兄席から歩調に合わせて拍手がなる。かくて幼年組から高校生組までの三百名の選手が整然と来賓席前に整列すれば、司会の伊藤初段の力強

い開会のことばで会は始まる。

先づ大会々長のあいさつ、来賓代表、小此木衆議院議員(代)の祝辞が終るとこの日特に港南ライオンズクラブからわが剣友会に、優勝杯が紅会長に授与され、笠原同クラブ会長の祝辞を受けて、剣士代表の宣誓の後それぞれ定めぬ席に控えた。

再び太鼓が響く。静まった中を石渡、大井六段剣士が登場、真剣を払っての日本剣道形の披露。終れば村井五段の居合道の形を見せてくれた。次いで女流武道家松井きく江、大井節子両剣士による薙刀形の演技があった。此頃神奈川県知事 津田文吾、衆議院議員、小此木彦三郎両先生から祝電が届き披露されたが一同拍手でも敬意を表した。

続いて初心者の基本練習が荒木五段の指導で見せられ、終って、高橋生たちの掛り稽古があった。

次いでこの日のハイライトとも云うべきテレビでなじみの中村泰三郎先生の抜刀術が演技された道場の中央に藁や竹筒が四方に立てられ、勇ましい掛声で手も見せぬ早業で一刀のもとに切り倒す妙技には、観衆のあちこちから感嘆の声が発せられた。万雷の拍手で終ると、大井、荒木両先生の模範

試合が行われ、大人の試合振りを見た一、二年生の少年剣士が試合して、正午休生の来会者全員に、此日ヤクルト会社からの好意で寄贈されたヤクルト、ジョウが配られ、後援会からはお弁当、包菓子、記念品が手渡され剣士一同をよろこばせた。

午後零時半、太鼓を合図に、続いての小学生の個人試合が始まった。日頃欠けた腕前の見せ場、一生懸命に熱戦を展開し観客をよるこぼせた。

終って、愈々興味深い団体試合が開始された。それぞれに選ばれた剣士たちが、勇気漲々、元氣一杯に戦う少年剣士に、声援と拍手と入り交って、剣道大会の雰囲気を感じ上げたが、熱戦一時間半参加団体八チームが終って一同整列、賞状、賞品が紅会長から手渡された。

此日特筆すべきは、横浜防具店から寄贈された金、銀、銅のメダルがオリンピック七のまに、勝者の首にリボンで飾られたことで少年剣士の顔は誇りと喜びでみち溢れていたことである。

又港南ライオンズ・クラブから寄贈された優勝杯を受けた選手の手をさえ切れぬ栄光のよろこびの顔が印象的であった。



午後三時、高橋後援会長の謝辞があつて閉りなく、盛会であつた大会の幕を閉じた。五百名の入々に囲まれ、さまざまな武道の醍醐味を味つた少年剣士の脳裡にこれのことである。

それにしては長時間、板の間に座つて実戦し、軟戦した純真な剣士達の姿は、剣道ならでは得られない根性づくりの體ともいふべきか。私はそのしんぼう強さに気ままた自分を省みて教えられるものがあつた。西哲の言葉に「われ學びつつ老ゆ」といふた感を深くし九つである。

第3回少年剣道錬成大会決算

収入の部	寄附並に広告料収入	二五〇〇〇
	後援会より補助金	一三〇〇〇
	計	三八三〇〇
支出の部	賞品代	八九九一〇
	菓子、弁当代	七七〇〇〇
	来賓接待費	一三三〇〇
	反省会費	三七八二〇
	印刷費	二二〇〇〇
	印紙並に裁判先生謝礼	三〇〇〇〇
	通信費	五〇〇〇
	交通費	一〇〇〇〇
	備品費	三〇三六〇
	消耗品費	三三五七〇
	会議費	三三九二七
	計	三八二九二七

差引 七三

祝電

神奈川県知事津田文吾殿より  
第三回少年剣道錬成大会を  
祝し少年剣士諸君が日頃精進  
の成果を遺憾なく発揮され、  
熱戦が展開されますよう心か  
らお祈りいたします。

衆議院議員小此木彦三郎殿より  
ご盛会を祝し皆さますます  
のご精進をお祈り申しあげ  
ます。

十一月五日  
英靈に捧げた奉納試合  
月例慰霊祭の少年剣士

晩秋の光に落葉散る異郷霊堂前  
に、濃族二百五十余名が参拝をす  
ました。十一月五日の十時半、わ  
が港南剣友会の少年剣士八十名が、  
やうやうしく英靈に参拝して東西  
に分かれ成儀を正して静座する。  
願一つなく掃き清められた静寂の  
慰霊堂前の空気はすがすがしい。  
石渡六段、大井六段の真剣もて  
日本剣道形を披露した後、防具に  
身を固めた少年剣士たちの面には  
赤、黄の風船がつけられた。  
太鼓の合図で教士先生の指図で  
勢よく元氣な掛け声で、風船をつぶ  
し合う野試合の姿に、慰霊の方々  
もほほえましく元氣な戦い振りを  
ながめていた。

午後十一時終る。多数の濃族方  
から感謝のごとばを寄せられたが、  
少年剣士たちにも感激を深かくし  
たことである。  
次の機会をまつ声も聞かれた程で  
あつた。

神奈川県始まって以来の初めて  
のわが港南剣友会の活動に理解と  
協力を賜つた県の関係部課長以下  
職員に深く謝意を表したい。

剣道名書集 扛生

わが兵法を学ばんとする人は、  
道を行つ法あり、第一によこしま  
なき事を思ふ所。  
(宮本武蔵、五輪書、地の巻)  
剣道を学ぶ者は、第一に誠心誠  
意を専らとすべきである。初から  
相手をだます、すかす等の考えを  
もつのはよくない。殊に初学の者  
は然り、といまじめ九言集である。  
故剣道範士三種齋一郎の五輪書解  
義に「肝心の本心を忘れて手の先  
や竹刀の先をもつて小刀細工的に  
相手をへてんにかかけようとするこ  
とときは、武士道の上からして、も  
大変不都合の次第で、決して兵法  
(剣道)の道理にかなうものとい  
うことができない」とある。

此道(兵法の道)に限りて直な  
る所を広く見立てされば、兵法の  
達者とは成りがたし。(宮本武蔵

五輪書、地の巻)  
直心が直なる所である。直心と  
は表裏のない正直の心である。至  
誠の心である。正明正大の直き心  
である。(森田文十郎範士の  
解説)

寒流帯月澄如鏡(宮本武蔵)  
寒流月を帯びて澄めること鏡の  
如し。すなわち明鏡止水。剣型の  
心境想うべきかな。

一、武は戈を止るの義なれば、  
少しも争心あるべからず。争心  
ある人は必ず喧嘩口論をなす。喧嘩  
口論に及べば、又、刃傷に至らん  
もはかり難ければ、剣を学ぶ人は  
心の和平なるを要とす。されば短  
気我儘なる人は却つて剣を知らざ  
るをよしとす。

(斎藤弥九郎道場の神道無念流演  
習場書の中の一葉)  
学剣の士よろしく肝に銘すべし。  
本當に修業したのは、剣術ばかり  
りだ。当時剣術の指南をしていた  
鳥田見山という人についた。この  
人は世間なみの撃剣家とは違つた  
ところがあつて、始終「今どきみな  
がやりおる剣術は型(小手先きの術)  
ばかりだ。せつかくのことに足下  
(君)は真正(ほんとう)の剣術  
(を)やりなさい」といっていた。そ  
れからは鳥田の塾(寄宿して、自  
分て薪水(風呂たき、水くみ、七

うきんがけ)の勞をとって修業した。今にこの年(七十五、六才)になつて、身体も違つて、足も正確に、根氣も丈夫なのは、全くこのときの修業の余慶(おかげ)だよ。(勝海舟)

なにしる人間は、身体が壮健でなくては行けない。精神の勇ましいのと、根氣の強いとは、天下の仕事をする上にとりしてもなくてはならないのだ。そして身体が弱ければ、この精神とこの根氣とを有することができない。それであるから、昔の武士は、身体を鍛えることには、よほど骨を折つたものだ。(勝海舟)

現代でも「体力づくり」といってスポーツやゴルフなど盛んだが、「体力」は作れても「気力」「精神力」の鍛練がついていかないように見うけられる。

敵を只打つと思ふ女身を守れ  
自ら備ふる腕が家の月  
右は一刀流の流祖伊藤一刀斎の  
確意の歌と伝えられている。  
一刀斎の腕が屋(粗末な家)に  
一夜を過すことが多かった。尤  
またま射し入る月光に目を開くと  
一刀斎の眼光と月光とが一つにな  
つた。月は屋根に照つて  
いるが、少しでも隙があると直ち  
に室内に光がさしこむ。われは敵  
をいっばいに見ているが、敵に僅

かな隙があるとそこは月光のよう  
に直ちに打ち込むところである。  
一刀斎はこのとき月光の位を借つ  
たといふ。(小野篁)一刀流宗家笹  
森順造「一刀流極意」

無力とは、心の外に刀なしと云  
うことにして、三界唯だ一心也。

内外本来無一物なるが故に、敵に  
対する時、前に敵なく、後に我な  
く、妙応無方、朕跡を留めず。是  
余が無刀流と稱する訳なり(山岡  
鉄舟)

(注)三界。過去、現在、未来の  
三世界のこと。無一物。心虚無で  
一物をも存しないこと。妙応無方。  
どんな変化にも自由に応ずること。  
神変自在をいう。朕跡。あとかた。

冬の夜ばなし

剣道道場のある大久保町風景

白葉生

そもそも横浜市は昔は久良岐郡  
横浜村といつたところで広い放牧  
場であつたらしく、古書に見えた  
のは足利義勝將軍時代の後撰歌集

秋露の立野の駒をひくときは  
心にのりて君ぞこいし

藤原忠房

とあるのが始である。  
その頃の此の地方は大久保、最  
戸、別所、中里、弘明寺を含めて

久良岐郡多々々郷と云われていた  
後に大岡川村字久保となつたが、  
石高二百十九石九斗七台といつた  
全くの寒村であつた。昭和二年横  
浜に編入されて今日に及んでいる  
が面積は二十一万坪位、東西に長  
く南北に幅せまい、牛の如き平地  
である。

大久保町と上大岡町との境に大  
岡川が流れてゐる。昔は水がきれ  
いですくつて飲め、元江どなので京  
の鴨川の水より優るといわれてい  
た。従つて染物屋さんが川に入っ  
て布切れを洗つていたのが見受け  
られたが今は水かさもなく心のな  
い人の捨てるゴミで黒くよどんで  
到底歌の情緒など見るべくもない。  
この川にかけられた大久保橋を  
渡つて百五十米程行つて右にまが  
ると近代的の建築の板岡小学校が  
ある。六十年の歴史をもつている  
港南唯一の大きな小学校であるが、  
その体育館を借用してわが港南  
剣友会の道場として毎日曜日午前  
中剣道の練習を行っている。

この学校の裏手に丘高地がある  
峯路だがこれが鎌倉に通じた古道  
で、ところどころ路づくりの古道  
が残され、一米幅の細道だが、  
鎌倉のうら山づたい君とゆく

山百合の花 月草の花  
吉井勇

ともいいたい昔の面影が残ってい  
るところもある。  
この路を歩いていくと大久保町、

上大岡一帯が眼下に見えるが、ふ  
と小高い森に青銅色の屋根が眼に  
とまる。昭和三十八年に建てられ  
た新奈川郡慰霊堂で、戦死者、罹  
災者五万四千柱を合祀し、毎月五  
日には県庁主催の慰霊祭があり、  
県下各方面の遺族が参拝する。

わが剣友会の少年剣士が十一月  
五日(日)に奉納試合をして英靈  
に敬意を表したところ、地つづき  
に一尺八寸の變体の線的美しい阿  
弥陀如来の立像を安置している千  
手院といふ寺がある。その階段下  
に昔は寺小屋があつた由だが、今  
はその面影とでない。  
とも大久保町は東海道筋から  
離れた農村であつたのが、今は都  
市周辺のよき住宅地と変わりつつあ  
るが、胸を張つて歩く男女の通学  
生、マイホームを愛する紳士、淑  
女の通勤の姿も多く見られるし、  
次代を負う青少年の健全な成長に  
つとめていける賢明な文化人の生活  
を知ること出来る。その中であ  
つて日曜日の朝ともなれば、晴雨  
にかかわらず、少年剣士が剣道具  
をかかいて町を歩か、やがて彼等  
には思い出の町となるであろう。  
一度は訪ねてよい町である。

後記

港南剣友会並に後援会に対し多  
数の知名人、有力者の方々から  
ご敬愛、ご支援をいただき心から  
感謝の意を表します。今後とも  
ご指導ご後援の程お願いいたします。

# 港南剣友会報

48. 4. 1  
第 2 号  
高橋源 寿  
港南区大久保町 6  
港南剣友会後援会  
(842) 0228

## 巻頭言

## 私における剣道

剣友会長 杠 文吉

- 港南剣友会剣道訓
- 一、私たちは礼儀を正しくします
  - 一、私たちが行ないを正しくします
  - 一、私たちは学業にはげみます
  - 一、私たちは勇気ある人になります
  - 一、私たちは社会につくします

## ○道場の心がまえ

- 一、道場の出入りには礼をします
- 一、先生、父兄、先輩にあいさつします
- 一、はき物、衣類はせいとんします
- 一、持ち物にはなまえを書きます
- 一、道場内は帽子をぬぎます
- 一、上級者は年少者をめんどろみします
- 一、道場で学んだことは日常に活

私が生れ育った古里は田園のこの通り一筋の鍋島支藩の小さな城下町であった。電灯が灯ったのは小学校にはいつた頃であった。それまではランブであかりをとっていた。石油が勿体ないといふのでこの家も夜はなるべく早くやんでしまつたので家の中はもちろん辺りも月夜の晩のはかは暗かつた。しかも便所は家の外にあるのが普通であつたので、夜中便所に行くのがこわくて母親を起こしてついて来てもらつたという風であつた。未っ子で特別に臆病であつた私は、母に大室厄介をかけた。電灯がつくようになつたのちも小学生の頃は定額灯というやつで夜八時頃になるとこの家も消されてしまふので、夜がこわいことに変わりはなかつた。小学校の高学年の

頃には、短距離と砲丸投の選手になり、すもうなども級中一番であつたし、相当臆白でもあつたが、生れつきの臆病さだけは相変わらずわれながらななせなかつた。中学にはいつてからは専ら剣道(正科)をやり二年生くらいで友達から初段クラスだといわれながらも夜がこわいことだけは、なおらない。三年生にはいつたある日なにかこわいのかと真剣になつて考えしてみた。その年頃になるとまいきさも出てきて腕に自信(今からふりかえると恥かしいことですが)もついて来て、暗夜に何者がとびかかつて来てもむざむざとは死なないぞと覚悟するに至つて臆病風が一べんに吹きとんだ心持ちになつた。同時に剣道を学んだあたりがたさが身にしみたのであつた。それから夜裏場のをばを通つてこわくなくなつた。そして身寸鉄を帯びていなくても死ぬまでには歯でも相手にかみついてやろう(犬ではあるまいしと笑いたもつた)という根性になつた。以後の稽古はいつも真剣を想定して竹刀を振るうようになり、試合の歩合いかんばしくなくなつたことは確かである。しかしながらいかなる場合にも剣道修練者として後指をさされるようなぶざまなことには

はならないように心がけて来たことも確かである。これからも私にとつて大恩のある剣の道を再すことのないようにと念願している。未熟者の妄言お許し下さい。

## ○剣術打込み(打ち太刀)十徳

- 第一 業烈しく早くなる事
  - 第二 打ち強くなる事
  - 第三 息合ひ長くなる事
  - 第四 腕の働き自由になる事
  - 第五 身体軽く自由になる事
  - 第六 寸法の太刀自由に使える事
  - 第七 懸下納まり体崩れざる事
  - 第八 目明らかになる事
  - 第九 打ち間明らかになる事
  - 第十 手の内軽くさえ出る事
  - 第十一 心静かに納まる事
  - 第十二 目明らかになる事
  - 第十三 敵の太刀筋明らかになる事
  - 第十四 身体自由になる事
  - 第十五 体堅固になる事
  - 第十六 手の内締まる事
  - 第十七 腕が方明らかになる事
  - 第十八 腕丈夫になる事
- (千葉周作「剣法秘訣」より)



行事報告

其一

慰靈堂前奉納試合

………戦没者の英霊に捧ぐ………

後援会長 高橋源寿



昭和四十八年一月五日、寒気き  
びしい朝、わが西南剣友会の少年  
剣士百名が防具をまとい、恭々しく  
県慰靈堂前に整列、英霊に新年の  
ごあいさつする心で礼拝した後、  
指導先生の号令で初心者には素振  
りを、有級者には野試合を行なつ  
た。元気な気合が静かな森に響く  
多数の遺族の方々が寒い中にもか  
かわらず観戦してくださった。試  
合が終った後、思いがけず県の杉  
田援護課長、石渡県会議員殿から  
鄭重な謝辞、敬励のお言葉を頂い  
て恐縮し且つ感銘を深くしたので  
私なりに不文ながらこの一文を英  
霊に捧げることとした。嘗って米  
国に於て、人間でありながら人間  
並の待遇を与えられず、投票権は  
三人で一票という不平等の取扱を  
受けた奴隷に対して、一八六五年  
時の大統領リンカーンが奴隷解放  
令を発して、人間平等、人権尊重  
の実現を見るに至ったことは人道  
上の偉人として讃仰されること  
である。

アジアに六億、アフリカに三億  
五千万という人間が、欧米人の支  
配下にあつてその主権を奪われ、  
自由を束縛されていたのが、先般  
の戦争によつていわば日本のお蔭  
で合計二十一ヶ国の新独立国家実  
現を得たことは実に人道上の偉大  
な貢献であり、日本国民の永遠の  
誇りである。この直接の偉勲は身  
命を捧げられた殉国者の遺業とし  
て心から敬意と感謝とを捧げるも  
のである。  
国の権益のためのみならず、各  
国をしてその所得せしめ、民族  
を以てその居に安せしめるという  
開放独立という正義人道の為の奉  
任感には、国敗れたりとするも七億  
五千万人の人類が開放された事実  
を想うとリンカーンのそれよりも  
偉大な正義人道の権化、人類の救  
主として永遠に光輝くものである。  
嘗つて私が会つたセイロン、ピ  
ルマ人などが独立出来た喜びは日  
本のお蔭であると感謝していたが  
自由の鐘を鳴らし、大道を闊歩し  
ているこのことだけで殉国英  
霊は地下に喜び給うことであらう  
遺族の方々も持つべきものは子供  
であると思ふべきだ。  
私たちは現在三百名近い少年剣  
士が将来祖国日本を支えるよう健  
全な育成に微力をつくしているが

報告

其二

水戸・東武館主催

全国少年剣道

練成大会参観記

三月三十一日、わが会の少年少  
女剣士十名をのせた列車は、常磐  
平野をひた走り走つてお昼近く  
水戸に着いた。駅前には歓迎の大  
アーチがたつていた。一まず我々、  
は駅から二十分、防具をかついで、  
小沢武先生の東武館道場へ赴き、  
明日の大会に参加する練習を行  
う。伝統と風格ある道場で、力一杯竹  
刀を振りまわしきびし練習して  
いったことよろこびは大き  
かった。  
四月一日、今日は待たれた大会  
の日、絶好の大会日和、会場のヌ  
ボリセンターは定刻九時には立  
錫の余地なきまで人満、超満員、  
入場チームの旗印を見れば、北は  
流水のオーソック海沿岸から、南は  
菜の花咲く九州四国あたりから、  
あるチームはユニフォームをそろえ  
て、何れも必勝の気構えで参加す  
る。その数三九六チーム剣士の数

三千人、附添う父兄又五千人を数えるという大盛況振りに私は驚くのみであった。

開けば東武箱々長小沢武先生は剣士の中から全国に懸けて剣道々場を再建、いろいろな圧力に屈せず、少年剣士の全国大会を続けて既に十四年になるという。

先生の言葉によれば「強い剣士をつくるのでなく、将来の祖国日本を支える少年の教育を指導するのだ」という。文武不岐、学業一努力が全国津々浦々に広まって今回の盛況を招いたことであろう。

試合は十二会場に分れて行われ極めてスムーズに事が運ばれていた。我々のチームは和歌山のチームと戦ったが惜しくも敗れた。しかし選手一同の日頃の根性づくりの成果の一端を見せられたのは頼もしく感じられた。

この日の大会の来賓席には県知事、市長始め全日本剣道連盟会長木村篤太郎先生など多数知名人が居られたが、わが剣友会々長長先生が特に木村先生、小沢先生と別懇の間柄で同席されていられたのには紅会長の人となり語るに十分で力強く感じられた。

(飯島 猛記)

## 少年剣士文集

関東少年剣道大会に参列して

五年 伊藤 昇

四月二日(月)午前六時四十五分生徒十六名、木梨先生、荒木先生伊藤先生と父兄四名、上大岡駅に集合し、東京へ武道館の大会に参

加しました。電車がこんでいたので川崎駅で国鉄に乗りかえ、地下鉄九段下の駅へ降りるころにはよその選手と一緒にになりました。

靖国神社の鳥居を正面に見て、左へ皇居北の丸の門をくぐると、立派な建物の武道館がそびえ立っていました。早速したくをしてい

ると入場式の行進曲がひびき渡って来ました。港南剣友会は四十番目に入場、伊藤先生と会旗を持

った暮田君を先頭に、堂々と入場しました。観ている人たちが大きな拍手が鳴っていました。三千

さんねんながら ました。席にもどって食事をしましたがおなかがいっていたのでとてもお

## 剣成大会の思い出

中学生 市川ひろみ

十月八日(日) 晴

私は防具をつけて試合をするのは今日でまだ三回目であったのでなんとなく膾炙しなかった。心の中では「負けてもいいから一杯やろう」と叫んでいい

が予選では負けてしまったという気が私の心から離れなかった。午後の部が始まった頃には一層「負ける」という気持が深まった。こんな不安に包まれながら女子部の試合の番を待った。

第一戦は今年五月に入った五年生だがなかなか強く、三本のうち一本は早くも取られてしまった。私は一時はあせってしまった。心を落ちつかせ、相手の入る面、胴のリズムを覚え、自分のリズムを変え綱を入れた。その瞬間白旗があがった。しかし、そのうれしさがあつた。しかし、そのうれしさはあと残る一本、負けるかがきまると思うと、落ちつかなかつた。

私は攻めて行き面を入れた。入ったと思ったのだが白旗はあがらなかつた。そのうら私の体力は次第に衰え

遂に相手に一本を奪われてしまった。私は残念でならなかつた。しかし今回の負け勝負をきつかけ、次の剣成大会までにはいろいろな人の試合を見たたいと思つたし、良い成績を納めたいと思つた。

けんどうり 五年 篠崎大介

けんどうりは楽しい。打込入体で練習したり、めん、こて、どうのポーズをやつて練習する。それにボクせんどうのけんどうを見学させてくれる。それを見ていると、「ほくも早くあいつうふうになりたいな」と思う。

この前、ぼくのはんのひろし君とまあ君がまだうまきはないが今の一番の友だちだ。行くときも帰る時もいっしょだ。この前三人で練習をした。はじめはちゃんんとやっていたがだんだんふざけてきた。まあ君が「ちゃんんとやろうぜ」といったのでやつた。

この前、けんどうごっこをしてあそんだ。ぼくが先生で、あとは生とだ。そして試合やあうりといつたからやつた。遊びだから軽くやつて僕がかつた。この時やつぱりけんどうに入つてよかつたなあと

ライオンズクラブの優勝杯  
五年 加藤勢津也  
今日は港南剣友会での剣成大会の日、ぼくはどきどきしてバスにの

### 会場に向つた。入場式がはじま

つた。いよいよ試合、ぼくははじま  
どきしながら自分の番を待った。  
一回せんは柳沢君とあつた。  
あぶなくまけるところだつた。二  
回せんは白井君、三回せんは山木  
君、四回せんは宇田君と試合して  
じゅんちょうにかちすんだ。  
いよいよ決勝だ。ぼくは伊東く  
んとあつた。勝つかな、負けるか  
なとあつた。勝つかな、負けるか  
と、ぼくは心配だつたが、ぼく  
は「勝つんだ」と思つて試合した  
いっしょうけんめいやつた。その  
結果はぼくが勝つた。優勝だ。ぼ  
くはよかつたと思つた。

### ひょうりょう式

ぼくは名前をよばれて会長の前  
に出た。トロフィーと賞状、横浜  
ぼうぐ店から贈られた金メダルを  
もらつて席にもどつた。  
また名前をよばれたので前に出  
た。この日、港南ライオンズク  
ラブを会長からいただいた。  
ぼくはほんとうによかつたと思  
つた。うれしかった。けんどうに  
はげんだおかげだ。つらいことが  
あつてもがまんできようしたけん  
どうのおかげだ。カッパには  
優勝 第三回港南剣友会少年剣  
道錬成大会 加藤勢津也と白いき  
れに書いてあつた。  
ぼくは来年をめざして、もうれ  
んしゅうを待てる。  
先生、会長先生、ライオンズク  
ラブの会長さん、その他の方々、  
どうもありがとうございます。

### 全国少年剣道錬成大会

三月三十一日港南剣友会代表は、  
全国少年剣道錬成大会に出場する  
ため、茨城県水戸の東武館に、あ  
る重い防具をよつて行きました。  
水戸駅から東武館まで、だいたい  
二キロぐらゐりました。  
私は、へとへとに、つかれてし  
まいました。  
東武館へつきさつそく稽古をし  
た。その時は、稽古ということば  
を聞くだけで、きせつそうでは  
なつた。ついてもまもなく稽古がはじ  
まりました。東武館の先生は、港南  
剣友会の先生よりとてもきびしく、  
こわい先生でした。でも、みんな、  
港南剣友会にいる時よりも、とて  
もほりきつて、稽古をしました。  
あまりいっしょうけんめいやつた  
ので、時間もわすれてしまいました。  
その内、二時間もあまりもちた  
稽古はおわり、先生方にお礼をい  
つて、旅館へ、むかいました。  
旅館へ行くまで、時間が少し  
あつたので、東武館の中を、見て  
まわりました。

建物、お宮に似た形で、少し  
日本的な建物でした。庭には、つ  
げの木、松の木などがたくさん、  
植えてありました。  
東武館を、よく見てから、そこ  
の近くのバスで、バスにのり  
旅館へいきました。旅館で、少し  
の間やすんでから、ハイヤーで、  
館楽園の好文亭を見に行きました。  
館楽園には、白い梅、桃色の梅  
などが、一面にさいいて、とても

### 好いでした。

部屋がたくさんあ  
つて、部屋の名は、全部植物でし  
た。梅の間、竹の間、桜の間。私  
が、一番おころひたのは、梅の間  
なら梅の絵、竹の間なら竹の絵が  
部屋を、くちぎつてあるふすまに、  
とてもすばらしくみごたひに、か  
いてあつたからです。  
館楽園をゆつくりまわつて、弘  
道館によつて、旅館へかきまつて、  
四月一日いよいよ全国少年剣道  
錬成大会です。選手はハイヤーで  
きました。会場はまんいんでした。  
午前九時選手たちが、入場して  
選手たちをむかえました。午前十  
一時五十分いよいよ港南剣友会と、  
和歌山の新南剣友会との試合が、  
始まりました。試合は二本勝負。  
しかし、まんねんなことに港南剣友  
会は、まけてしまいました。でも、  
暮田君と岩下君が、一本ずつとれ  
たことは、よかつたと思ひました。

〇級位格付審査八級一、二級  
三月二十五日実施されましたが  
二六三名の剣士に級位表示マータ  
をお渡しします。都合で受けられ  
なかつた方は九月に審査が開かれ  
る予定なのでその時に受け下さい。  
〇傷害保険加入  
三月三十日申込者二七〇名の会  
員を県体育協会内スポーツ安全協  
会級の傷害保険に加入しました。

### 事務局便り

四月一日から有効です。お知らせ  
ください。その後加入希望の向き  
は六月まで追加申込を認められま  
すので、なるべく早く申出下さい。  
分担金百円です。

〇ワッペン、ゼッケン希望の向き  
は実費でお頒ちします。  
〇防具着用を許された方は各自お  
求めください。なお、左記の防具  
店でお求めにいたつた方が便宜です。  
剣道用具取扱店  
〇横浜防具店  
西区戸部四ノ一五一一  
電話(二三一)八一八五  
〇甲手兼武道具店  
南区六ツ川町六七  
電話(七三二)五三六七

### 予定行事のお知らせ

〇来る五月三日こどもの日に因ん  
で九時から剣道まつりを行います。  
〇五月十三日 横浜市民剣道大会  
横浜文化体育館  
港南区剣道大会  
〇七月廿二日 斉心館新道場

### (寄贈)

〇一月七日の武道始には相談役大  
久保町山川祭楽会社々長市川政治  
殿から神奈川県知事津田文吾殿の  
書「心身一如」を染め抜いた手拭  
三本を寄贈してくださつた。  
〇三月三日の桃の節句には、女子  
剣士に対し高橋後援会長が個人個  
人としてカラー写真を撮影、思い出の  
写真にまつて寄贈された。  
〇四月一日磯子区の会員竹内茂樹  
殿から後援会に金一万円寄附を頂  
いた。





◇ 報 告 ◇  
「祝こどもの日」

第二回少年剣道まつり

港南剣友会の年中行事の一つに  
こどもの日を祝う剣道まつり大会



がある。今年は五月三日午前九時  
から坂岡小学校体育館で行われ、  
集まった少年剣士三百余名、父兄  
の参観者は百五十名を超え、演技  
も盛況山で、うちうちの行事とし  
ては盛況であった。

会は正九時、伊藤二段の司会の  
もとに開始、別記プログラムに示  
したようにさまざまな演技があつ  
たが、日頃受けた錬成の成果を示  
そうと少年剣士も熱心に技能を発  
揮したが、先生方の披露してくだ  
さつた演技も、非常に興味深く歎  
られた。

即ち、女流武道家四名が、わが  
道場の先生方となぎなたの掛り稽  
古、銃剣術と剣道との試合、はて  
は槍をとつて剣士先生との迫力あ  
る試合などは、日本古来からの武  
道の醍醐味を充分に味わせてくれ  
たのであつた。

正午、後援会から贈られたサン  
ドウィッチ、柏餅がお母さまたち  
によつて配られ、ココロラ会社  
の厚意によるスプライトのサービ  
スなどに満悦した午後の高点試合  
地区別トーナメントに元氣を見せ  
た。高点試合は学年別の優秀者  
にトロフィーを、地区別対抗試合  
の優勝チーム(芹ヶ谷)にはライオ  
ンズクラブ寄贈の優勝杯が授与さ  
れた。

その他、皆勤賞、精勤賞など数  
々の賞品が授けられ、播途、農業や  
から贈られた草花の種子をおみや  
げに家路についたが、それぞれに  
思い出を持つたことであらう。  
毎年繰り返されるこの行事が  
いつの日か少年の心のふるさとの  
集いになるよう願つて、私は舞台  
一杯に飾られた煙のほりを改めて  
眺めたのであつた。

プログラム

(式次第)

- 一 開会のことば 伊藤 伊藤 伊藤
- 二 あいさつ 大会委員長 大井忠勇
- 三 あいさつ 大会々長 石渡清治
- 四 審判長注意 高橋文好殿
- 五 選手宣誓(優勝杯返還、着席)
- 六 (清興) 白虎隊 関 百代
- 七 (演技) 日本剣道形

- 仕太刀 大井忠勇
- 打太刀 石渡清治
- 居合 舞想新伝流 村井五段
- なぎなた 掛りけいこ
- 土肥順子外四名
- 木架教士 大井教士
- 木架先生 石渡先生
- 大井先生 荒木先生
- 模範試合
- 銃剣術と剣術
- 関根先生 荒木先生
- 関根先生 荒木先生
- 槍術と剣道
- 関根先生 荒木先生
- 基本生演技 指導 荒木先生
- 高点試合 防具着用者一同
- 地区別トーナメント一〇チーム

八 表彰 影  
勝抜敵優勝者賞品授与

地区別優勝チーム 優勝杯  
皆勤、精勤者賞品授与 関 先生  
九 評  
一〇 閉会のことば  
後援会長 高橋源寿

寄贈者芳名

- 金一三、〇〇〇 後援会相談役 市川政治殿
- 金一〇、〇〇〇 会社々長 藤井彌栄殿
- 金一五、〇〇〇 港南剣友会会長 紅 文吉殿
- 金二、〇〇〇 ホウワヤ 鈴木芳和殿
- 金二、〇〇〇 美多加館 高橋文好殿
- 金一、〇〇〇 高木宏行殿
- 金一、〇〇〇 白井千枝子殿
- 金三、〇〇〇 とんき 阿彦子始子殿
- 金三、〇〇〇 きくや 高橋美津江殿
- 金一、〇〇〇 本田 忠夫殿
- 金三、〇〇〇 蘭 田志男殿
- 金三、〇〇〇 宇田商店 宇田正明殿
- 金三、〇〇〇 松月菓子舗 丹羽喜一殿
- 草花種子 三〇〇袋
- 清涼飲料 スプライト三五〇本
- 株式会社 ココロラポトリング

千葉周作

私が郡土史家たるべく志して茲に興あるけれど、柄にもなく劍豪伝に興味を持ったのは極く最近で新しくその始である。にもかかわらず敢て千葉周作について、その横断を而も可も短かに文で披露しようとするのは、若少年劍士が水戸の全国少年剣道大会に出場し、私もその地に於いて水戸学精神の一端を知ることが出来たのでその地にゆかりのある劍豪を物語りたくなったためである。

千葉周作は寛政六年(一七九四年)正月生れ、祖父は千葉吉之丞といつた相馬藩士、君前の試合に敗れたので発奮し、相馬の北辰妙見宮に折願して「北辰無想流」をたてた人である。父の幸右衛門は秋田藩士、浪人して吉之丞の聲望子となり、医者を家業として相州松戸に居定めた。

周作は劍を祖父に仕込まれたが、当時松戸に小野派一刀流の名人が、淺利又七郎義信について本格的に修業し、淺利家の本家、中西道場三年間学んだ。当流の徳意を極めたので師の淺利氏の養嗣子に迎えられたが、養父との意見があわず、淺利家を去って、父祖の北辰無想流と淺利家の一刀流を折衷した「北辰一刀流」を創始し、諸国修業の旅に出た。流儀をひろめた。歳二十七歳の時であつたという。

かくて諸国を武者修業すること五年の旅から帰って、江戸日本橋品川町に「玄武館」という道場をひらいたが後に神田お玉ヶ池に移した。

四十三歳の時、水戸へ行き、弘道館道場で水戸藩士と劍技を試たのが機縁となり藩主徳川斉昭に知られ、後に水戸藩の劍術師範として招聘された。天保十三年には百石が与えられた。

周作は劍聖とか、日本一とか言わらる程の強さではなかつたようだ。それが盛名をはたなれたるようになったのは周作の教授法がやさしく、誰れにもわかりやすかつたことと兄弟三人、子供四人、一門のことごとくが劍客で、周作を中心にして流派の隆盛に助んだことであらう。又北辰一刀流の宣伝に大いにつとめたのもその原因である。

今周作の説いた「劍術初心稽古心得」というテキストを讀むと概ね次のようである。

○初心のうちには、理非善惡の沙汰はいらぬ。理の教えに従ひ稽古をはげめば自然に會得する。

○氣は早く心は静、身は軽く目は明らかに氣は烈しく、これが当流初目錄の位は然り、味うべし。

○劍術に三声あり、一は勝を敵に知らず声にてこれを大きく掛けば敵恐れ後を掛けぬものなり、一は敵追い込み来り打たぬ、突かんの意見悟る時、此方より大声を掛けば敵は怖れしかと疑義すそこを打ち込むなり

一は敵を追い込みし時、此方より声を掛けば畏縮して無理なる手を下すものなり、その場をにつけ込み勝を得ることなり

○上述の場に至るに二道あり、理より入るものと、業より入るものとなり、何れより入るも助けなければ、理より入るは早く、業より入るは遅し、理は敵手に応じて工夫を費し、業は事に望み打たれて発明す。理は考え業を修し、始めて上達するなり、理と業とは車の兩輪、鳥の兩翼というべし

以上多く、土佐の坂本龍馬は周作の門人のようにいわれているが、実は周作の弟定吉の門人であつた。この定吉の娘乙女(ななき子)と龍馬といつか戀愛の仲となり結婚する約束であつたが、式をあげぬうち龍馬は慶応三年刺客の手によつて暗殺された。

乙女は龍馬を生誕の夫としてついに他に嫁がず、一生を独身で終つたことは有名な話である。

周作は安政二年十二月十日没したが六十二才であつた。

随感

港南劍友會報を見せたいだいて、益々ご盛大に發展しておられる模様を拝察し、およろこび申し上げますと共に、こゝままでにつくされた役員の方々のご心労のほどが認められ、只々感嘆の外ありません。

劍の道を通して、常日頃の生活

に、その「訓しの道」を念願していられる聖業こそ、今日昔少年指導、不良化防止活動に最も社会的に「育成の道」である、社会的貢獻の偉大さを痛感し満腔の敬意を捧げる次第であります。

持つ竹刀は、たゞ一種の棒切れであつて、野球のバットと大差無いように思つてゐた私は、この度その扱う言葉に「振る」とか「打つ叩く」と云う言葉でなく、劍の場合は「擲(さば)く」とあり、乱れた心を亂(たど)すこととを指して「さばく」と云うことであるを知り、これこそ精神修業の上にも如何に大きな役割を持つ道であるかと云うことを覺られ、劍道を学び、劍道に従う純真な少年諸君が、如何に大きく、楽しく導かれて居り、論しい思はれた方々であるかと羨望に似た気持ちになつたのは私一人だけではありません。

「心を亂す」とは平時に口にし、常日頃弁えていても、たゞ知るだけで実行が伴わない吾々にとって劍の道に従ひ、その業(わざ)を學んでゐる少年諸君こそ、不知の門に理想的修練の道を実践してゐられるもので、不動尊の持つ劍が破邪顕正(愛護叱咤)を表現してゐる私の教へに一致してゐる歡びを知り散て、散文を呈し投稿させていただきます。

増々ご健斗をお祈りいたします。

四八・六・二八



# 港南剣友会報

48. 11. 1  
第 4 号  
高橋源寿  
港南区大久保町 6  
港南剣友会後援会  
(842) 0228

## 思無邪について

紅 文吉

思無邪とは古く詩経（古代中国の詩を集めたもの）にある句で論語にも「詩三百、一言以蔽之思無邪」とあり、おもい邪といっている。私の先生の故柳生殿長師範も常に直立（つたつ）身の位と直（す）ぐな心とを強調しておられた。構えにも打ちにも迷いがあつてはならぬということである。宮本武蔵の二天一流の形の一つに「思無邪」がある。どういふ形か知らないが、柳生三藏といふ武蔵といふは同時代に同じ句を剣道の奥秘に借用しているのは興味深い。一刀流小野派の家元である笹森順造範士（国務大臣となられたこともある政治家）も「相手の強弱とその心術を正しく見

よこしまなしと読み、意味は真情をありのままにあらわしてごさかしいことを思わないということである。古来剣道家もこの言葉を剣の極意として尊重したものである。たとえは柳生十兵衛三藏は師範も常に直立（つたつ）身の位と直（す）ぐな心とを強調しておられた。構えにも打ちにも迷いがあつてはならぬということである。宮本武蔵の二天一流の形の一つに「思無邪」がある。どういふ形か知らないが、柳生三藏といふ武蔵といふは同時代に同じ句を剣道の奥秘に借用しているのは興味深い。一刀流小野派の家元である笹森順造範士（国務大臣となられたこともある政治家）も「相手の強弱とその心術を正しく見

(1)

エイ エイ オー

一、平和日本の将来は われらが肩にずしりと重くかかっていることを 肝に銘じて剣学ふあゝ少年の剣士われ われらが港南剣友会二、あしたの庭に剣をとり 夕べの窓に書を読む文武不岐の精神を 修めてこゝに幾星霜あゝ少年の剣士われ われらが港南剣友会三、父祖代々の誇りなる 桜の花にあやかりしこの道場に集い来て 互に切磋琢磨するあゝ少年の剣士われ われらが港南剣友会四、打ちつ 打たれつ何かある 勝つと負くるは時の運礼を忘れず技を練る これぞわれらが剣の道あゝ少年の剣士われ われらが港南剣友会

抜くには、おのれの心に邪惡の思いがないことを根本とする。心に邪念があると試合の場にはぞんでいろいろとつまずきか起り、強い相手を見かねてとんでもない仕損じをしたり、弱い相手にも無難作に負けたりすることがある。邪氣というのは、第一に自分の得意技にこだわつてむやみに勝気になるか、またはそればかりに頼つて情気になるか、あるいは無用の恐れに心が動揺するかである。また、暗れの試合場などに出て、観衆への見栄に心ひかれ、やたらに力み出し、はなばなしい技を示そうなどと虚栄心かられて打ち込んでならぬところに打ち込み、反対に打ち込むべきところをのがしてつまらぬ失敗をすることになる。こうしようあゝしようと考え過ぎるのはみちな邪気である。」と説いていられる。昭和の剣聖高野佐三郎範士の「打って勝つな、勝つて打て」というのも思無邪をいっていられるのではなからうか。古歌に「敵もなく我もなきさの海（あま）小舟滑ぎゆく先は波のまにまに」「うつるとも月は思はずうつすとも水も思わぬ猿沢の池」と。剣人の理想の心境として絶えず反省錬磨の資とならば幸甚幸甚。ま





武山駐とん地

△陸上自衛隊一泊の合宿錬成▽

八月十四、十五の合宿錬成は主に小生を中心に行われた。参加者七十二名、父兄十二名、指導教士八名、京浜急行の逗子駅で降りて貸切バスで自衛隊へ、小さな剣士たちの来訪に自衛隊員も驚かされたことであつたらうがわざわざ係員四名を常時附添つて、終始めんどうを見てくださった。

二千人の食事をする大食堂、みんな泳ぎたくなるような大きなお風呂、すがすがしい空気のもと、芝生の上で、打上げ花火に興じたり、ぼつかり浮んだまんまる月「あゝ今日は十五夜だ」といった隊員さんの言葉に夜空を仰いで歌いだした小女剣士もいた。

道場は宿舎からかなり遠いところにあつた。錬成の汗がにじんだような床に静坐した。道場の前には松林がつよいて、蟬が手近にとれるのでみんなたのしみながらかけめぐつたのも、都会地で味えぬよろこびを味つたことであらう。

(3) タンクにも乗つた。走らせてももらつた。その印象は強かつたらしく、剣士たちは帰つた後、絵面に作文にその思い出を書いてゐる。三日間のたのしかつた日

を過して、お世話くださつた親切な隊員に別れる時は涙ぐんで手を振つた剣士もいた程であつた。

やさしい隊長さん、親切な隊員さん、面白い話をきかせてくださった思い出はいつまでも残ることであらう。有難うさん、自衛隊の隊員さんたち。今日も仄々した庭に、国旗がひるがえり、起床ラッパや 消燈ラッパが鳴りひびいてるのとてしよう。規律正しい生活を見て隊の生活のたのしかつた思い出に、又来年も来たいと言つた剣士が多かつた。

自衛隊合宿収支精算

（収入の部）			8,640.00-
会費	合計		8,640.00-
（支出の部）			
通費	7,840.00-		
泊費	1,450.00-		
生シ	4,938.35-		
水菓	4,600.00-		
雑費（病人送り）	4,250.00-		
	（スイカ）	6,400.00-	
	（含む）	6,400.00-	
	合計	8,697.35-	
	不足額	57.35-	

自衛隊合宿錬成

五年 谷 学

八月十四日、此日は武山駐とん地での合宿に出發する日でした。朝八時三十分、上大岡駅に集合、班割をされてはくは二班の班長になりました。まづ逗子駅まで電車で行き、京浜逗子駅から貸切バスで自衛隊まで行きまして。自衛隊の門には鉄砲を持った隊員が立っていました。みんなしせいがよくだらだらした人はいませんでした。僕たちのめんどうを見てくれた人は萩野さんという人で、伍長さんなそうです。

萩野さんはぼく達の宿舎に案内してくださいましたが二階で入口には、港南剣友会体験入隊と書いたはり紙があり、歓迎と書いてあつて、とてもうれしかったです。部屋には鉄の二段ベツトが並んでいて、ふとんの代りに毛布をひき、お腹にも毛布をかけてねるのです。蚊が多いとかご、ベツト一つ一つにかやがついていますが、ぼくはかやをつけてねるのが始めてで、なんだか虫かごの中に入ったような気持ちでした。毛布を敷くのもたたむのも、全部自分の仕事です。部屋におちついてしばらくしてから食事にいきました。食堂の手洗場は小型のシャワーのよう

になつていて、中に入るとおぼんが竝んでいて、それをとって、流れ作業のように、ならんで食器や汁わんやおかずをいただいて広いひろい食堂のテーブルで喰べるのでした。

ご飯は茶色がかつて、パサパサした感じでしたが、あとでお母さんに聞いたのですが、栄養を考えたご飯だと知りませんでした。

午後、隊内の武道館で剣道稽古をしました。どの先生も熱心におしえてくださいました。夕方宿舎に帰って大きなお風呂に入りました。みんな大よろこびでした。

夕食後は映画を観賞し、広い芝生の土では打上花火大会を催してくださいました。自由時間には洗面場に備えてあった自動販売機で紙コップ一杯十円のジュースを何杯いものみしました。始めのせいとか、部屋にあつてみんなキヤーキヤーとさわぎました。消燈ラッパが鳴つてみんなベットに入り眠りました。

次の十五日は朝食がすんでから稽古着に着がえて道場にゆく途中、戦車を見に行きました。

係の人の許して戦車の中に入って見ま

したが中はせまくて、レバーそうちがたくさんあり、小さなぞき窓が前後左右ついていました。この戦車はアメリカ製で、最高速度六十四キロ、戦車の中では速いそうです。

大砲をうつと武山から逗子駅あたりまで飛んでいくそうです。一リットルの燃料では一キロにも走れないから速度は出るが、燃料もたくさん使うということでした。この戦車の重さは十八トン、燃料はドラム缶二箇分入るそうです。

説明がおわると実際に走らせて見せてくれました。思ったより速く前進、後退カーブと地面にキヤタビラのとを残して走りました。戦車見学のあと稽古に入り、みんなクタクタでした。

昼食後屋上で駐とん地周辺の地理について説明してもらいました。十四時三十分バスが迎えに来て武山駐とん地に別れを告げて帰り、長者ヶ崎海岸で遊びました。

たつた一泊二日の合宿でしたが、ぼくは色々なことを体験することが出来、合宿に参加してとても良かったと思ひました。

親切にお世話くださった自衛隊員の方々を今もなつかしく思います。

## ◆ 七五調人生訓 ◆

成田禅明 (試作)

あわてるな 一歩退つて 待つゆとり  
いやがるな 苦しいことを 先にやれ  
うぬぼれるな すぐ「チヂ」「ババ」に  
えんりよすな 元よりそんな なるからだ

おこたるな 夜半の嵐を 忘れぬよう  
からまるな 後であやまる 「ごのわるさ  
きばるなよ 息切れするは 見えている  
さきなるなよ 雨ばかりなし 贈もある  
けんかすな 話を先に 聞いてやれ  
こぼすなよ それほど「毛上」があるでなし  
さばるなよ 後の「こうかい」 追いつかず  
しぶるなよ 信頼こそが 平和保持  
すねるなよ もともと「己れが」 わるいのだ  
せびるなよ 無いものねだり みつともない  
しるるなよ 己れはもつと ほかかしい  
たかるなよ しべれる力 ある限り  
ちびるなよ 痛さほとく わかるとはづ  
つまるなよ 下手な考え 愚の骨頂  
とまどるなよ 基礎的訓練 やり直せ  
なめるなよ 流した汗の そのからさ  
にくむなよ 愛するところ 忘れたい  
ぬすむなよ 元は己れが 捨てたもの  
ねだるなよ 地球はたつた 一つだよ  
のぼすなよ 思わぬご用が 待つている

つよく

# 港南剣友会報

49 1 1 号  
第 5 号 寿 源 保 町 6  
高 橋 久 大 会 後 授 会  
港 南 区 友 友 会 後 授 会  
(842) 0228

剣道学習の効果

紅 文 吉

剣道学習の効果は、  
身体的効果と精神的効  
果とに分けて述べるの

新年おめでとうございます。  
皆さまのご多幸をお祈り致します

昭和四十九年元旦

港 南 剣 友 会

会 長 紅 文 吉

副 会 長 大 井 忠 勇

理 事 教 士 七 段 木 梨 実

同 教 士 六 段 石 渡 清 治

同 教 士 六 段 横 沢 伸 典

同 練 士 六 段 荒 木 敏 治

同 指 導 員 四 段 石 井 克 彦

同 指 導 員 三 段 伊 東 広 明

同 一 段 伊 藤 靖

同 初 段 関 根 鶴 規

同 初 段 村 井 保

同 初 段 大 井 啓 次

港 南 剣 友 会 後 援 会

会 長 高 橋 源 寿

副 会 長 伊 藤 靖

会 計 庶 務 奥 田 政 紀・森 郎 子

派 谷 登 美 子・江 尻 弘 子

十八才の今日まで健康でいられるのは、  
若い時から剣道を続け今日でも毎朝居合  
をやっているからであると申された。後  
で私にも居合を毎日やりなさいとすめ  
られた。次に、運動神経の発達例をあげ  
よう。近世の名剣士千葉周作は「剣者  
(は) 脚息心気力一致」という句を好ん  
で人に書さしたといふことであるが、  
一瞬一呼吸の間に勝敗がきまる剣道の極  
致を言い得ている名言であろう。水戸東  
武館館長小沢武範士に聞いた話であるが、  
同館の淀地(よど)のう) 十段は若い頃水  
戸市のはずれにある踏切りを四、五名で  
トラップに乗って渡ろうとした時汽車に  
はねられたが、剣道をやってたお蔭で  
一人だけ衝突の瞬間に飛びおりて助かつ  
たそうである、時折そのことを思い出して涙  
ぐみながら剣道を学んだ有りがたさを話  
されるのとことである。

第一には、精神的効果について述べよう。  
剣は気はくを重視することを昭和の  
剣聖高野佐三郎範士は、その著剣の気魄  
で強調していられる。剣道が本来斗争の  
手段として発達して来たことはいりまで  
もなからう。真剣勝負においては斬るか  
斬られるかは剣の技術よりも精神力の優  
劣が勝敗を左右することは、新選組の隊

がわかり易いと思う。健全な精神は健全  
な身体に宿ることは一つの真理であるう  
が、先ず身体的効果についていえば、剣  
道によって姿勢が正しくなること、運動  
神経に反射神経が養われること、呼吸  
がととのい発声によって肺活量が増大し、  
発汗によって血行がよくなり、筋力、脚  
力が強くなると共に耐久力がつく等の効  
果があげられるであろう。幼少の頃虚弱  
な体質の者が剣道をやったことによつて  
強健な身体になった例は沢山あるが、そ  
の一例として上段をよつては日本一と称  
せられた故高野茂範範士の話では、その  
高第官沢常吉という人は、子供の頃蒲柳  
の質で両親もその行く末を心配しておら  
れたが、高野先生に入門してから一、三  
か月の間に一貫目近くも肥つて七十三才  
で丁くなるまで速者でいられたとのこと  
である。また、全国剣道連盟会長木村篤  
太郎先生が、昨年四月の水戸全国青少年  
剣道錬成大会で挨拶された折に自分が八

長江藤勇や清水の次郎長の例からも知られよう。剣道は被弾のためのものであり正體実現の手段でなければならぬ。剣道を一生懸命学ぶことによつてファイトがわき頭張り、根性が身につつて来る。

勝海舟は江戸（東京）を兵火の厄からまぬかれざした偉人であるが「剣道修業の効は瓦解（幕府が倒れ明治維新になつた）の前後にあらわれて、あんな艱難辛苦にたえて少しもひるまなかつた。今にこの年（七十五才頃）になつて身体も達者で足もとも確かに、根氣も丈夫なのは、全く若い時の修業のおかげだよ」といつている。人生百二十五才説を主張した大隈重信（八十四才死去）も口ぐせのように氣力のない者は老若を問はず相手にしないといつていたとのことである。明治の

三傑の一人木戸孝允は若い頃吾勝弥九郎の練兵館の塾頭をつとめた剣士であり、坂本竜馬も千葉周作の玄武館の名剣士であつた。元節山藤有朋が槍の名人で明治一十六年の天覧試合で同年令五十五才の名剣士藤刀昇（會計検査院長、子爵）と試合をして歩（ぶ）がよかつたと記録されている。また剣道は礼に始まつて礼に終るといわれているように礼儀を尊ぶが故に剣道を始めて、礼儀正しくなつたと

よくいわれる。礼儀を正しければ好感を持たれることはいうまでもあるまい。次代をになう青少年諸君が剣道を一生懸命学習することによつて心身を鍛錬し将来の飛躍に役立ててもらいたいものである。

### 音無しの構え

紅 荷香

中里介山の「大菩薩峠」の主人公龍之助の「音無しの構え」は、どんな構えであろうか。龍之助は小説中の人物で実在の人物ではないが、介山は、ちゃんとしたモデルによつて創作したものといわれている。

それは、幕末の剣豪の中で「音無しの勝負」で有名になつた戸田流の高柳又四郎であるといふ。龍之助は「甲源一刀流」の使い手となつてゐるが、それは小説の通例としてモデファイしたものであろう。又四郎の「音無しの勝負」というのは、相手がいくら打込んで来ても、自分の竹刀にふれさせないで勝つから音をさせないというわけで、当時評判の難剣とされていた。一たび剣をもつて立てば、たとえ親子であろうがよろしやしないて仇敵と思つて打込めというのが又四郎の主義であつた。したがつて弟子が育たなくてその身一代で終つた。思うに、高柳は間合とタイミン

X X

## 報告 其一

### 第四回少年剣道大会

大人の善意に成果を示した

十月二十八日はあいにくの冷めたい雨風の日曜日であつた。桜岡小学校体育館前に設けられたテントも使用するすべもなく午前九時、太鼓の合図に三百名近く集まつた少年少女が勇ましく行進曲に合わせて入場、本部席前に整列、紅会長のあいさつ、大井大会委員長の試合上の注意あつた後、少年代表の三浦君が力強い宣誓を行つて各自定めぬ席に着いた。

九時十分伊藤塾一段の司会のもとにプログラムは進められた。

- 一、日本剣道形 教士 六段 石渡清治
- 二、模範試合 教士 六段 大井忠勇
- 教士 七段 木梨 実
- 教士 六段 横沢仲典
- 教士 四段 幸村明美
- 四段 平井節子
- 三段 伊藤広明
- 三段 土肥順子
- 四段 石井克彦
- 三段 柳田早苗
- 指導 荒木敏治
- 六、個人試合 小、中高年生、女子部





七 招待試合 参加チーム 隣接区道場

五団体

八 表彰

九 講評

プログラムは午後三時滞りなく終ったが、来賓各位から成果についてそれぞれ



高く評価をいただいたことは、日頃の勉強のおかげと感じた。  
この大会に寄せられた各方面からのご芳志父兄からの協賛金は別紙報告の通りであるが大半は、少年たちに数々の賞品、お弁当、



手拭、鉛筆等などの記念品を贈るに費されたがお互にそのしあわせを喜んだ。特に横浜ヤクルト中央販売会社からはヤクルト千本の寄贈を受けたのは感謝に堪えない。その他の寄贈者芳名をこ

介する

港南ライオンズクラブ

優勝トロフィー三基

奉野章賞 (元警視總監)

金銀銅メダル

市川政治賞 (桜葉会社社長)

金銀銅メダル

杠 賞 (剣友会会長)

トロフィー

祝電 神奈川県知事 津田文吾殿

衆議院議員 小此木彦三郎殿

以上

### 報告 其二

隣接各道場から招待を受けて出場した成績左の如く。即ち

三位十一月三日 南区剣道大会

優勝 十一月二十三日

洋光台剣道大会

優勝 十一月二十五日

汐見台剣道大会

### 報告 其三

十二月二十日神奈川県主催に依る「警



察と市民の集い」に参加、港南剣友会精進二百三十名、肌寒い港南中学校校庭に於て基本錬成、野試合の演技を披露、金指県警本部長から記念品を頂戴した。

### 報告 其四

十二月十六日、九時半から桜岡小学校

体育館に於て、本年の剣道納会を行う。みかんを配り、楽しい新年を迎えるよう折つて式を閉じた。

#### 新年後の行事予定日程

一、一月五日 十時半 慰霊堂前奉納

試合

一月十三日 武道始、鏡開き、おし

る粉の接待あり。

一月(日時未定) 寒稽古

三月末 級位格付審査

三月三十一日 水戸東武館全国大会

四月三日 東京武道館全国大会

五月五日 剣道まつり

#### ○会員の消息

山田元茂 (二段) 千葉市園生町一三五

川鉄社宅に転居

飯島 猛 御都合にて退任 (会計)

されました。

秋元 徹 (四段) 新たに指導員として

ご協力くださいます。

### 第四回剣道大会 収支精算報告書

#### 収入の部

来賓、参与、協賛者祝金  
後援会員（父兄）協賛金  
港南剣友会後援会

計

三八六〇〇〇  
一、二七〇〇〇〇  
一、五〇〇〇〇〇  
六、六三〇〇〇〇

#### 支出の部

準備費 打合会議、印刷物代  
大会費 食糧費、記念品代  
通信費 父兄、通知印刷  
謝礼金 審判、器具借上代共  
反省会費  
雑費

計

九、一八〇〇〇  
三、七五〇〇〇  
八、五〇〇〇〇  
二、九五〇〇〇  
二〇一〇〇〇  
八、五〇〇〇〇

差引 一、二九〇〇〇 後援会会計に納入

#### 賛与協賛芳名簿

(異敬称、順不同)

市川 政治 相談役(港南剣友会)  
杠 文吉 剣友会会長  
佐藤 一郎 参議院議員  
藤山愛一郎 衆議院議員  
草野 威 市会議員  
森 善治 市会議員

五〇〇〇〇〇  
五〇〇〇〇〇  
一〇〇〇〇〇〇  
三〇〇〇〇〇  
三〇〇〇〇〇  
三〇〇〇〇〇

瀬之間 功	市会議員	一	三〇〇〇〇
桑野 章	前監視総監	一	三〇〇〇〇
川合 武	消防団顧問	三	三〇〇〇〇
中村 中	体育指導員	三	三〇〇〇〇
小林 進	港南警察署長	一	一〇〇〇〇
金田 清司	横浜中央ヤクルト販売会社	一	一〇〇〇〇
今園 国建	日本揮発油KK	一	一〇〇〇〇
長田 良	株式会社オサダ	一	一〇〇〇〇
上大岡金融懇話会	上大岡銀行団	一	一〇〇〇〇
添田 四郎	港南柔道聯盟会長	三	三〇〇〇〇
北見 忠治	北見産業KK社長	一	一〇〇〇〇
本庄 幾藏	捺染会社社長	一	一〇〇〇〇
鈴木 甲	"	一	一〇〇〇〇
藤井 弥栄	"	一	一〇〇〇〇
横川福太郎	"	三	三〇〇〇〇
高沢 正芳	"	三	三〇〇〇〇
馬場 安男	"	三	三〇〇〇〇
堀内 武	"	三	三〇〇〇〇
大井 啓次	縫製会社社長	一	一〇〇〇〇
横浜 防具	岡田久行	三	三〇〇〇〇
岡田 久行	正心館道場	三	三〇〇〇〇
金子 勇	戸塚剣道本郷支部	三	三〇〇〇〇
南山 義治	磯子剣道会	一	一〇〇〇〇
平野 什正	汐見台少年剣友会	三	三〇〇〇〇
藤田 毅	洋光台剣道同好会	三	三〇〇〇〇
大井 節子	市なぎな九連盟	一	一〇〇〇〇







# 港南剣友会報

49 5. 1 号  
第 6 号  
高橋源久 寿 6  
港南区大久保町 6  
港南剣友会後援会  
(842) 0228

## 島田虎之助のこと

紅 文吉

今年は寅年ですから虎にちなんで幕末の剣豪島田虎之助直親のことについてその人となりの二三を紹介してみましよう。両道にその才能を発揮しました。この頃島田硯山(号)は、豊前(大分県)中津のことある日塾からの帰りに大きな野大

の藩士です。慶応大学創立者福沢諭吉もこの出身です。今NHKで売りに出ている勝海舟は、島田の高弟です。この虎之助は、幼少の頃は手に負えぬ腕白大将でしたが、お母さんの愛情としつけによつて自ら修業につとめるようになり、十二才の時外他(とだ)一刀流堀十郎左衛門に入門して剣道にはげ

## 港南剣友会の歌

二朝の庭に剣をとり

作詞 紅 文吉  
補作 大沢祥司  
作曲 渡辺 巨

### 一、歴史をしのぶ鎌倉の

緑につづく港南は  
史跡をめぐれば剣道の

あゝ 若い気合が こだまする  
少年剣士  
われらが港南剣友会

「メン ドウメン ドウ ヨナ  
(以下繰返し)」

夕べの窓にふみを読む

文武のころを 胸に秘め  
燃える気合の二段打ち

あゝ 少年剣士  
われらが港南剣友会

三、桜が園の誇りなる

まことの剣を 受けつぎて  
息吹さす がしく 練る 技に

あゝ 若い気合の剣の道  
少年剣士  
われらが港南剣友会

が子供に吠えかかり噛みつくのを見た虎之助少年は足元にあった棒切れをひろいあげて一撃の下にその犬を打ち殺して子供を助けてやりました。また、堀師範が「一手稽古をつけてやろう。遠慮はいらぬから思う存分打ってこい」と虎之助を手招きしましたので、彼は進み出て竹刀を大上段に振りかぶつて気合鋭く先生の頭上に打ち込んだところその早業に先生はかわし切れず尻餅をついてしまいました。十八才の頃であつたということです。先生のすすめで九州一円を武者修業に出かけましたが、その頃九州一といわれていた柳川(福岡県内)の新影流大石進次郎の道場で大石に負けたのは殆どの道場で勝つか引き分けかの勝負をしました。その後再び九州の介道場を廻りましたが今度は歯が立つ者が無いほどに上達しました。この上は江戸へ出て一層修業しようとして江戸一番の剣豪男谷精一郎信友(号は静斎)：この人は勝海舟のいとこに当り、講武所の頭取をしました。海舟は男谷のすすめ子で島田の弟子となりました。：この門に入りはげしい修業に明け暮れました。この入門の時、一つの話題を残しています。虎之助は、上京第一夜を上野の旅館ですごしましたが、宿の主人にかたて入門を志していた井上伝

兵衛の道場への道筋をたずねましたところ主人は、「江戸では井上様より男谷様の方が人気があります。入門なさるなら男谷道場がよろしいでしょう。」と道案内をしてくれました。男谷に試合を申し込んだら快く応じてくれましたので、立ち合いました。そこで、かねての志望通り井上道場に向いて試合をしましたところ井上には歯が立ちませんでした。早速入門をお願いしましたが、井上は「君は太刀筋も技もよく上達の見込みが大ありだからこそ、ここで学ぶより男谷先生について修業した方がよい。」と許してくれませんでした。虎之助は先日男谷先生とは試合をしたが、葉勝した旨を告げました。井上は笑って「あの人は、利口な人だから、負けて相手を喜ばすこともある。先日の試合を真にうけるのはどうかと思う。男谷先生には、私ごときの手が及ぶところではない。私が依頼状を書いて差し上げるから、今一度お願いしてみては。」とさしました。そこで、改めて本所亀沢町の男谷道場に行ってお願ひしましたところ先日とは打つて違って男谷先生の太刀さばき、鋭い気合いに手も足も出ません。はては道場の羽目板に釘づけされて全く参つてしまいました。しかし、男谷は虎之助の剣筋を見抜いて、その場で入門を許しました。男谷に入門

して三年目二十五才の時、師のすすめによつて東北地方を武者修業に廻り、再び江戸に戻つて男谷の世話で浅草新堀に「直心影流島田虎之助道場」を開き、多数の門人を養成しました。その一人に若き日の勝海舟がいたのです。海舟にすくめて蘭学（当時唯一の西洋の学問）を習わしたのも島田であります。それは、島田が自らも学問にも熱心であり、時勢を見通す見識があつたからであります。この点でも虎之助は、当時の他の剣士よりも一等ぬきんでいたのであります。この島田が新選組有数の剣士土方歳三に人遣いから襲撃され手も屈服せしめた逸話もあります。その時土方に向つて「剣は心なり。心正しからざれば、剣また正しからず。剣を学ばんと欲すれば、先ず心よらず。心を学ばんと欲すれば、先ず心よらず。心よらんと欲すれば、先ず心よらず。心よらんと欲すれば、先ず心よらず。」とさしたといわれています。このような文武両道の達人もその人の持つて生まれた運命といおうか天寿を全うすることができず嘉永五（一八五二）年九月十六日不慮の死をとげました。浅草正定寺に三十九才でありました。勝海舟の筆になる墓碑が立っています。



## 水戸東武館創設百年記念

### 全国少年剣道錬成大会參觀記

高橋源寿

確固たる日本人の育成が要請されておる現在、日本伝承の剣道できびしく心身を錬磨するを目標している我が剣友会では、希望者に依る水戸遠征を実施した。選拔された少年剣士十名、三月三十日、十時上野発の特急列車で水戸へ、途中停車しないでぐんぐん走る列車に快適さを味つて十一時半、水戸につく。早速大井教士の引率で東武館道場へ。各方面から走せ参じた少年たち多数に交つて練習に汗かき。終つて水戸駅前の一時預り所に防具類を頼んで、特別史蹟重要文化財の弘道館見学に出掛けた。水戸藩当時の語る重要な史蹟公園、十七万八千坪の庭に六百株の梅林がある。数々の建物のうち明治維新の際焼失せずに残つた至善堂は水戸藩主烈公が之を建て、文を講じ、武を錬り、水戸藩の子弟を養成したところ、特に奥の一室は藩主の座所で、徳川慶喜公が水戸に帰り恭順の意を表し、静かに朝廷の命を持たれたところである。館内の数々の公文書、書画など観覧して三時辞去、次いで梅花で名高い僧菜園に遊ぶ、好文亭は見晴しがよく、藩主烈公が文人たちを招いて詩歌、管絃、茶の

湯などを楽んだところ、菊、桃、つつ

わが道場にて、指導上の便宜の爲

歌い出した。「れきしも深く鎌倉の……」

湯などを楽しんだところ、菊、桃、つじ、桜、萩、紅葉、松の間などあって、わが選手たちもその立派さに驚ろいてい

た。四時、タクシーで此日の指定旅館のあ

る赤塚町まで行く。一夜を静かに過し、翌三十一日は六時起床、七時半には朝食

をすませてバスで体育館大会場に赴く。それぞれ会旗を掲げ、必勝の意気込み

で全国各地から集まった団体四五十、まことに盛況であった。わが会は十一会場

で三六九番目、開会式が始まった九時から待つこと四時間、北海道の大柄の少年

と対戦、健闘したが結果は勝をゆづった。午後三時半 体育館を去って水戸駅に

ゆく。小憩の後四時三十分発の急行で帰路についた。

清純な空気を胸一杯すって、次の機会に備えようと一層の練習を奮って上大岡

駅に七時三十分着、一同元気で家路に急いだ。

## 報告

### ○級位格付実施さる

三月二十四日九時から格付が五人の審査員によつて実施された。あくまでも本人の自由意志による格付申込なので、受付けた数二九七名八級から二級まで初心者は午前、防具着用者は午後、それぞれ熱心に日頃の鍛錬振りを発揮した。

わが道場に於て、指導上の便宜の爲に実施されたにしても父兄の関心は高く、防具着用の許可を与えられた者は、思いを新たに、あこがれのめん、こてをつけて一層剣道に精を出すことであろう。

### ○港南剣友会の歌発表

鐘にわが剣友会長 紅先生が作詞された歌に、神奈川県音楽隊長がすばらしい出来ばえの作曲をしていただいた。早速上永谷の島伊鶴さん、中村照子さん、郷野治美さん、市川清隆さん、笠原 隆さん、下永谷の大沢廣さん、藤居久幸さんなど音楽愛好者のグループを選んで、テープに吹込んだ。名にしておう県音楽隊員の御好意の伴奏で美しい快よい而かも力強いメロデーは少年剣士たちの志気を高め、元気づけるにふさわしいものであった。

### ○港南剣友会の歌 録音風景

奥田 政 記

「それでは録音して見ましよう。」と、指揮者に言われて室内は一瞬シーンとなり、指揮棒が振られ前奏が始まる。子供達の表情は少し緊張している。バンドの音量は意外と大きい、やがて合図があり

歌い出した。「れきしも深く練習の……」伴奏に驚べて心細い、子供達もあまりの音量に驚いてか口の開きもやませまじり言葉がはつきりしないようだ。そのうちに録音が終り再生して聞く、思ったより歌と伴奏のバランスはとれている。だが心配したとおりやゝ発声が悪い、一回目は止むを得ないと思う、特に終りの「メンドウメンドウ」これでは一本とれない。

今一度繰り返して練習を行ないマイクの位置を変えてみる。「よしっ本番いこう。」指揮者の声がかかる。口の開きも良くなり言葉がはつきりしてきた。やはりかけ声ももの足りない気がする。更に練習する。バンドの方々もいろいろと意見を出し話しはまとまった。三回目の録音が始まる、なかなか良いと思う。

録音が終わった。最初からの録音を通して聞く、やはりしりしりに良くなった。七人の子供もはつとした様子である。

窓の外は相変らずものすごい雨が降っている。私達は隊員さんの皆さんにお礼を言つて今日の演奏を反覆しながら雨の中をバスで送られて帰途についた。

○卒業生に記念写真を贈る  
この春小学校を卒業し中学校に進学した会員六十五名と、剣道指導された先生方と記念写真を撮り一同に贈つた。日本

伝承の剣道で心身を錬磨する結びつきが、いつまでも続けられるよう、又少年時代の懐い出の一つともなれば幸である。時に天の声、道場に響いて彼等の前途を祝福した。

おゝわが少年剣士諸君よ  
今君たちは中学に進む  
深かい愛といつくしむで  
幾とせか剣の道を学び  
文武不岐のまことの心を知る  
君たちの命 今新たなり

かげろう燃ゆる春の日も  
いてつくような冬の夜も  
いたはずかよった道場は  
竹刀の音がこだました  
あの若い気合が今の君たち  
君たちの命 今新たなり

われ指導者として云う  
勇気もて人生を正しく駆け  
ひたすらなる顔をこめて  
このささやかな品を贈る  
われらがまごころのあかし  
あめつちに二つなき君たち  
君たちの命 今新たなり

### ◇事務局便り◇

#### ○日野剣道教室開設

四月一日から日野小学校体育館で毎日  
唯剣道を教える道場が出来ました。

荒木敏治先生

#### ○釜利谷剣友会開設

金沢区に新しく剣道場が出来、四月  
七日道場開きがあり、招かれて

会から八名出場、団体戦で優勝を獲得し  
ました。

#### ○関東小学生剣道錬成大会

四月十四日、東京武道館で恒例の剣道  
大会が行われ、石渡教士、伊藤先生に引  
卒されたわが会員十四名出場、一位一名、  
二位三名等優秀、優良賞を獲得好成绩を  
示した。

#### ○入門者受付制限

入門希望者の数が増えましたので一時  
入門を制限します。

次の受付は七月・十月・一月となりま  
す。

#### ○練習時間の変更

基本者	午前九時	～	十時
七級上六級	十時	～	十一時
五級以上	十一時	～	十二時
一般、高校、大学生	十二時	～	一時
○指導員、助手委嘱			
秋元 徹	三段		
栗原 正	初段		
渡辺喜一	初段		

四月一日から 基本者剣道指導助手とし  
て、ご協力願うこととなりました。

#### ○お願い

校庭に自家用車の乗入れは特別の許可  
ない限り禁じられております。正門の入  
口から入った処に駐車してください。

#### ○持物に名前を

充分注意していますが、忘れ物が多い  
ので処置に困っています。持物、はき

のに必ず氏名をつけてください。  
○道場内の作法

お互にあいさつを交しましょう。

幼児をお連れのご父兄には、恐れ入り  
ますが道場内では菓子類を食べさせるこ  
とはご遠慮ください。

練習中のお子さまの心になって見守っ  
てください。

○会費納入袋は即座に捺印、おかえしす  
ることになっております。お子さまにも注  
意してください。

○保健には特に注意をはらっております。  
傷害保険(一年間一〇〇円)まだ仲間入  
りしてない方は、至急お入りください。

○近く会員名簿を発行しますが、長期欠  
席、又は退会される場合は必ず届出くだ  
さい。

毎回名簿の整備に努力していますが、  
不備の点あればご連絡願います。

### 予 告

来る五月五日(子供の日)九時から少  
年剣道まつり大会を行います。今回は基  
本者の者が楽しめる会にしたいと思います。

恒例によりかしわもち、お弁当などを  
よろこぶように予定しています。特に競  
技には声援してください。

# 港南剣友会報

49. 9. 1  
第 7 号  
高 橋 源 寿  
港南区大久保町6  
港南剣友会後援会  
(842) 0 2 2 8

勝つて打て

会長 杠 文吉

「打つて勝て」で  
はなく「勝つて打て」  
とはどういうことなの

今月のごとは  
問題はこの精神的にみじめな時代に、  
けいしい情熱をまきおこすことだ。

ビカソ

自分のことのみ考え、あらゆることに  
じぶんの利益を求めものは幸福ではあ  
り得ない。みづからの為には生きんと欲す  
るのなら、他人の為に生きよ。

セネカ

自分じしんに欠けていたものが、息子  
に実現されるのを見ようとするのは、す  
べての父親の敬虔な願ひである。

ゲーテ

(1)  
青春は色あせ、恋はしほみ、友情の木  
の葉はおちる、だが、母親のひそかな希  
望はこれらにもたえて生きつづける。

詩人 ホームス

か。それについて、以前に「思無邪について  
でちよつとふれておいたが、昭和の劍聖  
高野佐三郎範士は次のような例をあげて  
説明しておられる。

私が日本一というのは、松崎さん（松  
崎浪四郎範士）ですね。あの当時（明治  
中後期頃）の試合というものは、今のよ  
うに打つてから勝つんじゃない。今は面  
か胸かボカソと打つてから勝つたとい  
うことになりませんが、松崎先生のは、勝  
前後の動作というものが、それは非常に  
尊いもんです。松崎先生などは、股立ち  
を取つて（袴を腰ひものところへ少し  
引きあげる）白ひげをたくわえた大きな  
人でしたが、正眼に構えて、一々攻めな  
ければ打たない。タツタツと攻め、ジリ  
ジリと攻めて、小手と行つて、それが軽  
いと思うと、お面なりと来るのです。打  
つ前に攻めて、敵に戦斗力を失わして打  
つのです。今の人はボカソと打つてから  
ああ勝つたとか、彼は強いとか弱いとか、

上手とか下手とかいいます。

また、齋村五郎範士十段も「先づ勝つ  
て撃て」といい、先づ気をもつて相手を  
打つてしまつて、然る後に技をもつて敵  
を打てという意味だ、つまり気と気との  
争いである。それ故、自分より技の劣つ  
た者と稽古する場合には、千変万化の妙  
を尽し得る者も、大先生方に向うとなる  
と、殆ど構えたりで、竹刀を動かさな  
い。息があがつてしまふ。これは、結局  
技ではなく、氣で圧倒されたのだ。いわ  
ゆる氣合い負けである」と語られている。

千葉周作は「劍術名人の位」という題  
で次のような実歴談をのこしている。

一刀流中西忠兵衛子正（周作の先生）  
の門下に寺田五郎右衛門宗有、白井亨と  
いう二人の組太刀（形）の名人がいた。  
自分（千葉）は寺田派を学び、今でも門  
人に教えているが、寺田氏は自分の構え  
た木刀の先からは火炎が燃えて出るとい  
い、白井氏は、自分の木刀の先からは輪  
が出るといひ（超能力見たようですね）  
どちらも名人であった。実際は火炎も輪  
も出るのではなく、劍先のするどいこと  
をいって、自分の木刀の先へ寄りつか  
れないぞという意味である。ある日、中  
西の門人が、寺田氏に向つて竹刀での稽



古を望んだところ、寺田氏は、自分は竹刀での試合はしないことにしているが、どうしてもというならば、自分は素面素小手（防具をつけない）で木刀でお相手しよう。あなた方は、面小手をつけ、こちらにすぎがあらば遠慮なくどこでも勝手に打ちなさい、決して打たれませんからといひ放つたので、皆は憤慨して目にも物見せてくれよう立ち合うことになった。そこで、中西先生はじめ皆はどうなることかとまばたきもしないで試合の成り行きを見まもつた。

寺田氏は、二尺三寸五分の木太刀をもつて立ち合つた。相手が、寺田氏の面を真つ二つにしてくれようと思つた。寺田氏は、面へ来ればすり上げて胴を打つぞという。また、小手に打ちこもうと思つと小手へ打つてくれれば切りおとして突くぞという。このように相手の出方を事前に察知して一々声をかけるので相手は恐ろしくなつて引きさがつてしまった。そのあと二、三人われこそはと寺田氏に立ち向つたが、誰も一度も打ち出すことができず試合は終つた。と、

これは、まさに「勝つて打つ」例であらうと思ふ。

上記は、すべて名人といわれた先生達

の言行であつてわれわれではできないことではない。ただ下手は下手なりに「気合い」の大切なことを頭において相手に對して一歩も退かないぞという心がけで稽古を積めば、試合の場合にも相手よりも自然に優位に立つことができる。ここで「気合い」というのは、いたずらに大きな声を出して虚勢を張り、やたらと元氣よく動きまわること（少年剣士には必要ではあるが）ではない。打つなら打て（昔から打たれて修業せよといわれてゐる）という覚悟で氣を張りつめて（固くなるのはよくない）油断なく相手を圧倒する精神状態をいうのであつて、剣道の四戒すなわち驚懼疑惑を去つて相手に對することである。打たれないでうまく打つてやろうなどという根性では、上達はおぼつかないと思ふべきである。

古歌に

切り結ぶ 刀の下ぞ 地獄なれ  
 たんだ踏み込め あとは極楽

兵法は 立たざる先の 勝にして  
 身は浮島の 松の色かな

先をとれ 先をとらるな 先をとれ  
 身を捨ててこそ 浮ぶ瀬もあれ

(以上)

## 幼少年の剣道指導の体験から

教士六段 大井 忠勇

人間の一生で一番大切な最も楽しかるべき発育の途上で入学難という関門にせめられ、精神的にも肉体的にも痛手は大きく、学校生活もただ試験／＼と味けない生活におわられての毎日が現状となつてしまつた。

大学の試験が大変だというなら、まだしも高校、中学、小学校、幼稚園に至るまでとは、何たる世の中であらう。又、経済成長による現代生活は、子供に、いざうらに安易な生活を樂しむ氣風を培い、これでのいかと、父兄達の心に不安な氣持を、いだからせる、現今になつてゐるのである。しかし、これは誰のせいと、いうことも出来ないことであり、世の中の安定に向つて、根氣よく、国民一人一人が自覚し除々に改革するよう、つとめねばならぬことなのである。

入学難も一向に下火にはならないが、父兄達はこの、あやまつた、教育の中で、子供達をどのようして育てていつたらよいか。子供達の爲めに何をしてやつたらよいか。を真剣に考へるような落ち着きを見せてきたことも事実である。

ただ過保護にすぎた教育ママ的考えも時を越し、子供達の将来を考え、子供達に對し眞の幸せをもたらす健康な躰と、複雑な世の中をめげず、生き抜く強い氣力と体力をもった人間形成の基礎づくりをせねばならぬと願っているに違いない。現実の学校教育体制は世の変化のおおりに受け、傷痕は深く新しく前進するにはかなりの時間がかかりそうである。

したがって、父兄達は、現在の学校教育や家庭教育では、如何ともしがたい德育的教育を他に求めようとするのは、当然のことと言わなければならぬ。なかでも礼儀とか、根性作りとか、節度、忍耐など、人間形成の基礎となる強い心の養成を、体力づくりに合わせて育てることを、望んでいるに違いない。又、子供達の氣持の中にも徐々にではあるが、強い身体にならなければいけないと、いう氣もできつつあるようにも思えるのである。一面、子供達の素質をのばしてやろう。勉強の不足を補ってやろうと、相も変わらず塾通いをさせている父兄もいるが、剣道のような道場への入門に力を入れてこそ、愛情の発露に外ならないと思う。私は德育が長い眼でみるならば大切であると思う。

次に防具を付けるようになってから、色々と父兄の不安の氣持が出て来る。又耳にするのである。

防具を付けての打ち合いは、医学的な立場からも、小学校二、三年生頃から行わせるのが妥当であろうとは、医学博士伊藤京逸先生をはじめ、医学者剣道人の口をそろえていることである。自分の身のまわりの世話は、母さんがしていた。

だが、防具をつける身となると、自分自身がなんとなく、兄さんになつた氣分がある。自分で自分を聞かせているのである。面扭も結べない子供は並大抵のものではない。ではなぜ無理に道具を付けて打ち合ひする、打合をすることにより、負け合ひはなむない氣が起る。その中に、攻撃精神が養われる。又、子供同士試合にしても、はつきりみえる自然に忍耐が養われている、これが剣道では德育になつてゐる。一日一步の前進ここにありといつてよい。私が父兄に、お願いすること

は、子供達が剣道をいつまでも長くつづけること、たくましい人になる様、協力して頂きたいことです。以上簡単に申上げましたが、此度私と木梨先生が神奈川県、公認のスポーツ指

導委員になりました。一層張切つてこの道に励み後進の指導に当ります。どうか父兄方も御協力の程お願いします。

### 父兄の為の

#### わかり易い剣道の話

― 剣道教科書から ―

後援会長 高橋源寿

私は剣道の有段者でもなければ体験者でもない。わが子に剣道を学ばせたくて道場に通わせている父兄の立場にある一人にすぎない。それでいて教えて剣道について書く所以は、初めて入会された親御さんたちが知りたがつているこの道の一端を、剣道報科書から抜き書き父兄に紹介しようと思ひたつたからである。勿論内容は剣道に多年の体験とらふ蓄とを傾けて著わされた剣道教科書からのものでところどころ難解な字句は私なりに平易に書き改めたものである。

#### ▲ 剣道の意義 ▼

わが国の剣道は、皮を切らせて骨を切り攻める手はあるが、守る手はないというように、攻撃的精神に燃えたつていくべきものであつて、片手には劍、片手に

は柄をもつて身の安全をはかりながら敵を倒そうとする西洋流のフェンシングとはその趣きを異にしているわが国特有のものである。即ちわが剣道は義の為に身命を惜しまず、どこまでも突進するというのをその根本精神としている。

したがって、剣道の妙趣は、ただ技術のみによつて会得することは出来ない。まづ以つて心の修養を必要とする。剣道は徒らに竹刀でうったり、突いたりする技の巧拙を比べて楽しむ遊戯ではなく、日本人としての修養に大切な、立派な体育法であり、修養の道である。

### △剣道の目的▽

剣道はもと兵法、劍術、擊劍などといつて、剣をもつて敵にうち勝つ術そのものであったが、今日ではむしろ心身の修練を目的としている。我が港南剣友会の剣道はとりわけさうである。

### △剣道の効果▽

- (一) 身体の方面
- イ 全身を動かすから、身体各部が調和よく発達して立派になる
- ロ 筋肉や骨髄を強く堅くする
- ハ 機敏に、また巧みに、こまかく

- 動くようになる
- ニ 呼吸器、循環器、消化器、排泄器などを丈夫にする
- ホ 皮膚の抵抗力を増す

### (二) 精神の方面

- イ 精神の統一をよくする
- ロ 判断力を正確、機敏にする
- ハ 信義、礼儀、謙讓、廉耻、勇氣、自信、質素などの諸徳や、機敏、周倒、嚴密などの諸性を養い、何事をするにも常に至誠を以つて貫くようになる。

### △剣道を学ぶ心得▽

- (一) 敬 教士や長上に対して尊敬の念を持つことは、何の道を学ぶにも大切なことであるが、剣道を修めるのにはとりわけそうでなければならぬ。
- 禮 礼儀は敬の心を形に表わしたものである。長上、同輩、後進に対しても礼儀を正しくしなげればならない。剣道は礼にはじまり礼に終るべきものである。
- 持統 一時は発作的に猛練習をし、てもすぐに中絶するようでは効果がない。

はじめに大いに熱心に練習しても、人の心の常としてあきを感じることは避けがたいから、その時はだらりだらりと少しづつでもつづけてをり決して中止しない。そのうちに、また大いにふるい立つて馬力をかける。これをくりかへし繰り返して、着々とつとめるところに修養上の価値があり、また、上達するのである。

このことは私が一番感ずるところで、当会に入会して僅か数ヶ月、子供があきたからといつて、すぐやめさせてしまうのと思うと、入門の初心を忘れないようにおすすすめしたい。

### △道場に於ける作法▽

剣道は技術よりも精神の鍛練を第一の目的とするから、道場は精神鍛練の実行場である。だから道場にはいる時から、去る時まで一挙一動はみな道になつていなければならぬ。また心が動かすことも明白なことであるから、いつも端正な姿勢、態度をたもつよう心がけねば

ならない。

まづ道場内にはいる時には、ぬいだ帽子やきものなどをりっぱに整頓し、定めめの席に正坐する。

場内で立つて動作する時のほかは、必ず正坐し、師長や先輩に対しては常に敬意を失わぬように注意しなければならぬ。けいこが終つたならば、道具をよく整頓した後、正面に向つて立禮をして退出する。

#### ▲道具のつけ方▼

一、正坐して垂、胴、面、小手の順序につける。

二、面は最も注意してつけ、稽古中にゆるんで来ないように、面紐をそろえてしめることが大切である。

三、左右の耳が後から見えるように面をつけると、耳を打たれた時にもこまかくが破れない。

四、結ぶべき紐は必ず全部結ぶことを忘れてはならない。

#### 記念品手拭について

今回も桓公長のご厚意による揮毫の手拭を全員に配ることにしました。題字の意味の説明については次の通りです。

#### 「神妙剣」について

紅 文吉

この度の大会では、柳生新陰流の最上の極意太刀とされ来た「神妙剣」という句を返して拙筆を走らせた。

柳生但馬守宗矩(徳川家康、秀忠、家光三代にわたる剣道の師範)の長男十兵衛三蔵が著わした「月之抄」という伝書に宗矩の父の宗厳石舟斎の師で隆流の開祖愛宕移香が、日向国鶴戸(宮崎県日南市鶴戸宮戸)の岩屋にこもって剣道上達の願をかけていた時、上から蜘蛛が一匹ふらさがって来た。それを扇で打とうとしたら、却つて願にのつてしまった。左へ打ち落とそうとするに右へ越し、右へ打つては左に越す。まっすくに打てば向うの方へ去り、扇を引くと移香の願に止まった。これにおいて悟りを得て「極意神妙剣」の太刀を發明したと記してあります。

昔の剣道の試合は、木剣か真剣をもつてしました(上泉がはじめてふくろ竹刀を考案してその後は段々普及して参りましたが)ので負けた方はけがを食うか片輪になるか死ぬかという、それこそ真剣そのものでした。したがってわざを練りに練ると同時に心胆を練りあげることにも全力をあげました。そのような苦心の末、到り得たわざであるため手軽にこれを他人に教えたくもなかつたろうし、他流のこれに教えることはまかり間違えば自分の死につながることもあつたわけで伝書には心覚えとしての型の名称を、説明なしにしか

も仏教の言葉などを借りて記しているのが一般で、殊に秘伝にいたつては口伝(くでん)として師匠が口で説明して型を示す方法をとっています。それも免許皆伝の時に限り人からぬすみ見られぬようにして伝へるという慎重さです。そんなわけで後世の者からはまるで判じもののようにちんぷんかんぷんという伝書が殆どです。

私が故柳生厳良先生から形を示して教えていただいたのによれば、相手のどこを打つにしても打ち終つたところは剣が自分のへその廻り五寸位のところにびたつとおさまる剣のつかい方をいうとのことでした。ところで形はそれとして相手の心のすきを直感して一拍子が無拍子に打つ神技を神妙剣と名づけたものようです。これは名人中の名人わざであり、如き未熟者のよく修得しうるところではありませんが、古来柳生流剣士の目ざす最高の剣位であつたわけですから、ここに取り上げ見ました。

#### 古歌に

妙の字は少(わか)き女(おとめ)の乱れ髪 中(結)うに中(云)われす解くにと(説)

真実の神妙剣の兵法を つかう人こそいたるうえ(至上)なれ。

神妙に心をかくる所こそ 真の水月真の水月。

切り結ぶ刀の下ぞ地獄なれ ただ切り込めよ神妙の剣。

◆◆◆  
記 録  
◆◆◆

○六月二日 洋光台剣道同好会一周年記念大会に出場、団体戦に於て準優勝の成績を取めた。

○七月二十一日(日) 港南区青少年剣道大会が斎信館道場で行われた。わが会からは七級以上以上の会員一〇二名が参加個人戦に於て、一、二、三位の外優秀な成果を挙げた。

○七月二十八日(日) 全日本少年剣道大会が東京の武道館で行われ、わが会から五名の代表選手を送つて立派な成績をあげた。

○八月五日 箱根宮城野合宿錬成を行う小中学生十七名、高校生十五名参加、特別の錬成を行う。

○八月六日 武山駐とん陸上自衛隊に於て合宿錬成、参加者母子共に七十五名、規律ある生活の一端を味いつつ、道場に於て高段者の先生方から稽古を受く。夜は映画、花火などで広々した営内に楽しい時を過ごし、八月七日は戦車に乗つて楽しい時を得、松林に蝶とりなどにも興じて思い出を残して帰る。

○八月十日、十二日 二班に分れ、勝山日本武道館研修センターに一泊の合宿

錬成、千畳敷の体育館に驚ろき、受持先生の熱心な指導に時を通した。夜は花火、すいか割に興じ、翌十一日は御宿海浜に陽の光を浴び汐風にあつて夕景 横浜に帰る。

二班も同じコース、フェリーボートにて金谷から鴨川シーワールドに時を過ごし、研修センターで楽しい一夜を返した。何れもよき憶い出を残す程 楽しく且つ有益な合宿錬成であった。

◆◆◆  
事務局から  
◆◆◆

○格付について。来る九月二十二日、九時から桜岡小学校体育館で剣道の格付をいたします。全員受験のこと。

○少年剣道大会について

創立五周年に当りますので、十月二十七日九時から桜岡小学校体育館で行います。全員の出席をわがします。

○ワッペンと級位表示マークについて  
新らしいワッペンと表示マークを相談役の市川政治殿が調製してくださいました。安い値段でお領ちします。

○横浜リバイライオンズクラブからすばらしいトロフィーの寄贈がありました。有難く頂戴し、少年剣士の持廻りの賞杯として永くその榮譽を称えましょう。

○七月で入会希望者は、切りました。次回は十月一日に受付けます。

◆◆◆  
寄 附  
◆◆◆

○市川政治殿から書棚、ワッペン等

○竹内 君男殿から 金二万円

○小倉 芳男殿から 金三千元

○江尻 弘子殿から 金五千元

○駒木 照子殿から 金三千元

○白井千枝子殿から 商品券

○宮川 博文殿から 商品券

其他賛助会員として、市川政治殿、高沢正芳殿から毎月定額の協賛金をお寄せ下さるようになりました。御厚意を感謝します。

◆◆◆  
お 願 い  
◆◆◆

☆港南剣友会事務所の新設☆

このたび桜岡小学校通りの森田ビル二階の一室を借りて、事務所を新設することとなりました。ついでには事務所用品のテーブル、椅子、ソファ、書棚など、皆さまのご家庭で不用になった品を提供願ひ、父兄方できくりあげた事務所にしたいと存じます。幸に不用品とされる品がございましたらご一報ください。スペースの都合で重複したりする時は遠慮願うこともありますので前以つてご諒承願います。



# 港南剣友会報

## 港南剣友会々々歌

作詞 港南剣友会長 杠 文吉  
作曲 果藩音楽隊長 渡辺 巨

一、歴史をしのぶ 鎌倉の  
緑につづく 港南は

史跡をめぐるは 剣道の

若い気合が こだまする

あゝ少年剣士

われらが 港南剣友会

メンド メンド コテー

以下同じ

二、あした  
巖の庭に 剣をとり

夕べの窓に ふみを洗む

文武のころを 胸に秘め

燃える気合の 二段うち

三、桜が岡の はこりなる

まことの剣を受けつぎて

いぶきすがしく 練るわざに

若い気合の 剣の道

1 号 券 143 3  
4 号 券 143 3  
9 号 券 143 3  
50. 高 橋 源 港南区大久保町143  
港南剣友会後援  
(844) 3983

## 引き立て稽古の上手下手 (続き)

会長 杠 文吉

中野宗助範士の引き立て(指導)稽古は日本一といわれていた。常に一遠間から一稽古に三〇〇回づつ面を打て、そのするこゝろ上達の早道であり、甲手や胴



はいつでも容易に打てる」といわれ、相手が本当に打つたように打たせ方が名人であった。私(加茂治作教士)は或る大会で懸り稽古をお願いしたが、平素は楽に打てるので四五本きれいな業で打つつもりでいたところが一本も打てなかつた。平素は相手に本当に打たれたように思わせるのが上手で引き立て稽古日本一の定評があらわれたのも、それだけ実力の差があったからであると思知らされた。もともと剣道の指導者は、相手より少しばかり強いくらいに稽古をつけてやるのが弟子を上達させる秘訣といわれている。(「剣道稽古の実力差」より)

マア、子供がかかつて来るのを子供が面白いように使えるようでなくてはダメだ。元立つ人は、攻めすぎては子供が縮こまってしまう。また、思う存分痛い目にあわせるところがつてしまう。三本に二本打たせて軽く一本打つ位がいい。打たせるといっても気を抜かず姿勢態度をくずさずにやる。もちろん相手におびやかされてはダメ、いい業が来たら打たせ、引き出しては、また追い込むようにする。すべてこういふ携古は気当りの剣道がわかるようになると使える。ベテン稽古やブツタキじゃわからないね。昔、警視庁の逸見宗助先生は弟子を引き立てることが上手でした。いいところを打たれた場合には本当に「マイリ、マイリ」といわれたので弟子はのびた。ところが下江秀太郎先生は弟子の仕立て方は下手でした。弟子に一本も打たせぬ

のだからね。そうしておいて自分は突きに行つては「突キダトサ」甲手や面を打つては「コテダトサ」「面ダトサ」と目分だけで使われたため強い弟子が育たなかつた。どうしても上に立つ者は弟子をのぼすように相手の力量に應じて使うより心がけなければ剣道に成らない。柴田衛守先生は、相手との間に糸を張つていようにして懸かる人を休ましてはいかぬ。出て来ればドンと糸を張るようにかといふように罷りました。それは、こちらに「残心」の心持ち、一本打つてもまた懸かるぞという心がまえがないとそれができない。うっかりすると居付いてこちらも休んでしまふからダラダラと稽古が長くなる。(小沢愛次郎範士談話)

次に千葉周作の三男道三郎の高弟広瀬真平の「剣法秘訣」から引用すると「上手者下手者が授業するときの心得」と題し「上手者が下手者に練習をなす有様を見るに多くは下手者を疲勞せしむべき手段を用いず、極めて初心の者に亦一勝敗毎に間合をとり或は新に間合を近くする等恰も同等者と試合が如き状態あり。斯の如きは剣門に於て蓋し正当の授業法と称すべきも忽ち自己に疲勞を來して多数の下手者に対すること能わず。故に多人數に授業をなさんと欲するとき、勝敗既に決するも間合を取り直すことなく直ちに責め込みて相手に毫も休息の間隙を得せしむべからず、然るときは相手怒りも疲勞するも我に疲勞なく能く數人に對して撃合を試みることを得べし。」と、以上二回にわたつて引き立て稽古に就いての先達の例話を挙げましたが、要は下手(したて)といつても全く初心の者あり、多少上達した者あり、上級の者あり、相当段位の高い者あり、少年あり、成年に近い者あるいは成年者あり、男子あり、女子ありといふ具合に多岐にわたつて段級のちがひもあつて、一律に論ずることはできません。下手の腕前、体力、年齢に応じた引き立て方を各自工夫するほかかならうかと思ひます。最後に国士館師範時代の齊村五郎範士の引き立て稽古ぶりを門下の大沢教士のお話からうかがいますと「その頃、先生の稽古は大木にかかつて行くようで一分以上続く者は一人もありませんでした。氣を充実させて打たんとすると、二三歩退つて間を切つてしまわれるので『しまつた』と氣がくじける。それに乘つてスウツとせめられ、苦しまぎれに面を打ちに行くとさつと流され『これ』と思つと、又攻められ、もう息が上つてふらふら、足ががらく、どうにもならずふらふらになつて終ります。」と、つまりところ下手の實力相應に業をのぼしてあげようといふ心(老婆心)悪いにくいようにあります。徹底的になおしてやるのが大切で、竹刀を振り上げ振りがおろすとき自分の体の中心線ははずして振る者が、くせになつたとなかなかおらないものです。

## わかり易い剣道の話 (その二)

### 剣道学習の効果

☆剣道学習とその徳育上の効果  
剣道は刀で互に勝敗を争うものであるところから、ややもすると腕力の養成となり、乱暴な人物を作りはしないかと心配する者もあるが、それは実際の剣道を知らないからである。剣道を学ぶと、礼儀正しくなり、謙讓の徳が養成される。次に勇氣が養われ、大膽になるから、このこと思ふ大事の時に、実力が充分發揮されるようになる。事ある時は勿論、平等の世わたりにも重大な強みとなるのである。又、克己も、忍耐、持久の徳を養うから、いかに困難な事業にもまた研究にも従事することが出来て、自分一人を利するばかりでなく、広く国家社会に貢献することが出来る。

剣道を学ぶ氣持になれば、大抵のことは困難、苦痛と思わない。また剣道は、まっすぐな道を学ぶものであるから、人をまっすぐな正しい人にし、人と交つては信用せられ、商業工業を営んでも成功する。

剣道を修行しておれば、人は遂には和平を好む温良円満な人格をつくる。また公明正大な氣分を養ひ、大丈夫の心境を會得する。間髪を入れぬ技術の修練、心意の訓練によつて、沈着、ちみつき、果斷の徳性を養ひ、臨機応變の才をも兼ね備して人後におちないようになる。

☆剣道学習とその体育上の効果  
剣道は男性的体育法である。

剣道は自分に敵する者を打ち倒す為  
に自然に生れて来た道であるから男性的  
である。進取的であり積極的である。い  
かなるものでも打ち倒さなければ止まな  
い鍛錬をするので、弾力のある心身をつ  
くり、如何なる苦痛をものごうるよう  
になる。

□剣道は全身運動である。四肢五体はほ  
んど平等に使うので、円満に釣合よく  
発達し、均せい美を増す。

○興味のつきない運動である。

個人の意志によつて、自由に行うこと  
ができて、他人から無理強いされること  
はない。自分相応の相手を選んで行える  
から身体を害することはない。

従つて学ばば学ぶ程妙味を増して剣の  
道を楽しむというようになる。

四年齢を問わず何人にも出来る運動であ  
る。

十歳以下の幼年者から、七、八十歳の  
高齢者まで行つて、少しも不似合の感じ  
がないから社会体育としてこの上ないも  
のである。

— 剣道教科書から —

## 記 録

一月五日

年頭の慰霊堂前奉納試合

後援会長 高橋源寿

嘗つて米國に於ては人間でありながら  
人間らしい待遇を与えられず不平等の取  
扱を受けた奴隷に対して、一八六五年時



の大統領リンカーンが、解放令を発して  
人間平等、人権尊重を高唱したことは人  
道上の偉人として讃仰されるところとな  
つた。

アジアに六億、アフリカに三億五千万  
が欧米人の支配下にあつてその主権を奪  
われ、自由を束縛されていたのが、太平  
洋戦争によつて、わが國が開放独立とい  
う正義人道の為に貢献した結果二十一ヶ  
國の新独立國家を見たのは敗戦したとい  
いえ我々の永遠の誇りとするところであ  
る。この偉業に直接偉勲をたてられたの  
は身命を捧げられた殉国者である。慰霊  
堂に合祀される五万四千柱の英霊に敬意  
と謝徳の誠を捧げる意味でわが剣友会は、  
神奈川県護謄課、遺族会の主催される慰

祭に奉納試合を行つてゐるのである。  
昭和五十年一月五日、此日は殊に寒氣  
きびしく朝であつたにもかかわらず、集  
まつた幼年組、少年組の剣士は百二十名  
玉砂利をふんで堂前に参進、うやうやし  
く拝礼して防具に身を固め、元氣一杯で、  
日頃の教習の業を披露した。太鼓の音が  
すがすがしい朝の空気にこだまする。指  
導先生方の日本剣道形も披露され、居並  
ぶ遺族方の拍手を受けた。十一時半終了。  
お供物を戴いて帰る。

## ☆ 武 道 始

恒例の武道始は、一月十二日九時から  
桜岡小学校体育館で行つた。集まつた少  
年剣士は三百五十余名、父兄の参観も多



く盛会を極めた。

此日は特に寒さ厳しく、素足に冷めたさがひしひしと感じられる朝であったが定刻九時、一同静座、紅会長あいさつが終つて基本者の錬成に意気昂がる。終つて防具着用者の互角稽古、級別の試合稽古などあつて十一時終了。

参加者一同にみかん、カップしる事が配られ元気に解散、それぞれに思いを新たに於て今日の式を終つた。

☆剣道格付の実施

三月十六日(日) 三月廿三日(日)板岡小学校体育館で本年最初の格付が行われ、新旧会員三百二十名の希望者が、高段者五名の審査員によつて厳正の審査格付をされた。初心者には午前中、防具着用者は午後、それぞれ即日成績が発表された。

三月二日(日) 午前十一時から此の春卒業、進学されるもの四十名を集め、先生方一同と記念撮影した。わが道場で剣道を学習された少年たちには、得難きよき思い出の記念品となつたであらう。

三月二十九日(日) 全国少年選抜剣道錬成大会が水戸で開催されるにつれて、神奈川県内から八チームが選抜され、わが剣友会に指名を受けたので、会員十名、引卒先生二名に引卒されて二十九日上野発の特急で水戸に向つた。一泊の上三十日帰京。

☆昇段昇級者名

昨年中 段級位審査を受け、神奈川県剣道連盟から合格証を授与された者

六段 相田玲二先生  
一級 白井一也(一級) 倉橋隆行、

小島裕一、日西正信、長田裕二、  
市川ひろみ(以上中学生)  
加藤勢津也 宇田正光

(以上小学六年生)

初段 佐々木光徳(高校生)  
二段 栗原 正(一級)

「事務局から」

○これからの行事予定  
四月十三日 関東小学生剣道大会  
四月二十日 後援会総会  
五月五日 少年剣道まつり  
八月四日 夏季合宿錬成  
八月十五日 夏季合宿錬成

勝浦武道館研修センター  
夏季合宿錬成(交渉中)  
板岡小学校体育館  
夏季合宿錬成(交渉中)  
武山自衛隊教育隊

○剣道練習時間の変更  
三月から剣道練習の時間が変わりました  
初心者 九時三十分～十時三十分  
防具着用者 十時三十分～十一時半  
其後は一般者

。剣道錬成日の休み  
四月十二日(日)、十三日(日)は選挙投票所となるため体育館は使用出来ませんので剣道練習は休みとなります。

寄附芳名 年末から二月末日まで

- 高沢 正芳殿 金壹万円
- 荒川 早苗殿 金参千円
- 比留間秀夫殿 金貳千円
- 小倉 民雄殿 金五千元
- 江尻 弘子殿 金参千元
- 塚口 好子殿 卓上テレビ 一台
- 伊沢嘉与子殿 バラ造花 ケース入
- 小川りつ子殿 折たたみ椅子二脚
- 横川 弘子殿 清酒
- 鈴木 清子殿 //
- 平沢 恵子殿 //
- 藤美 渡辺重男殿 清酒
- 藤美 奈良梅枝殿 //
- 一番 鈴木和光殿 //

(お願い)

毎回忘れものがあつて、扱いに苦労します。父兄方に於ても、お子さんの身につける被服類から手拭、はきもの、ぼうし、傘類、竹刀に至るまで、なまえをつけておいてお互に迷惑ならぬようお願いいたします。

次に校庭の地盤が軟かいので、自家用車の乗入れは禁じられています。また練習前早くから来て運動場で遊ぶ子供に父兄方から注意ください。

X

X

# 港南剣友会報



1 号 寿 9 8 8 3  
 7 0 源 保 町 会  
 1 0 橋 久 後 援 会  
 5 0 第 高 港 南 区 大 久 保 町 会  
 港 南 区 剣 友 会  
 (844)

落合直文  
 西行法師  
 平野国臣

はがくれにちり止まれる花のみぞ  
 しのびし人にあふこちする

わが胸の燃ゆるおもいにくらぶれば  
 煙はうすし 桜島山  
 乃木希典

武士はたまも黄金も何かせむ  
 いのちにかえて 名こそ惜しけれ  
 平 忠 度

ささ波や滋賀の都は荒れにしを  
 わかしながらの 山ざくら花

## 剣道における呼吸法

会長 紅文吉

剣道で懸け声を出すことは、今では普通になつています。昔は「無声」といって声を出さない流派もありました。たとえは柳生流ではある一つの形（打太刀、

仕太刀ともにハッーと腹の底から息の繞り限り大きく長く発声して打ちあり。）を除き無声で動作することになっていま

す。もちろん有聲であれ無聲であれ打突の時は気合いは十分でなければなりません。また、打突は息を止めるか、息をはき出すかしなければできないことは申すまでもありません。以上の前提に立って以下に有聲無声と止息呼気との可否について私見を述べて学剣者の参考に供したいと思ひます。

私は最近大変興味深い呼吸法についての紹介記事を読みました。実行してみようと思つてみます。それは「腹息心の調和法」略して「調和息」と呼ばれる呼吸の方法です。藤田豊斎という人が創始者でその弟子の村木弘昌医師が生理的医学の立場から解説していられます。

私立ちの日常の呼吸は、そのほとんどが無意識のうちに行われている。脳幹の最下部に延髄があり、そこに呼吸の反射中枢がある。ここで速心性と求心性のインパルスが反射的に処理され、大脳はこれに関与することなく呼吸運動が行われている。人間は一日に約二万回ほど呼吸

るが、その度に大脳を煩わしたのでは大脳が疲れ切ってしまうので、反射中枢に任せるしくみになっている。しかし一方では必要な場合には意識的に十分に吸いこむこともできるし、はき出すこともできるようになってゐる。深呼吸はこの意識的呼吸によるものであるが、深呼と深吸では難易がある。生理解剖学的にも呼吸筋の配分を見ると深く吸うのはやさしく、長く息を出すには努力がいるようになつてゐる。呼吸器系で最も重要な仕事をしてゐるのは肺胞であつて、酸素と炭酸ガスの交換場所である。この肺胞以外ではガス交換をしない死腔となつてゐる。したがつて浅い呼吸ばかりしてゐる人は、呼吸気が死腔を往復することが多く、ガス交換量は極めて少くなるので健康がそこなわれることにもなる。運動することは呼吸を深くすることにもなるので、この点からも健康によいこととなる。たゞ、前述したように深呼吸を連続して長い時間行つと大脳に負担がかかり過ぎてフラフラになる欠陥がある。これに反し呼吸を意識的に長く、例えば、「ヒトツッ」「フターツ」と十位まで頭

の中で教えてやり、また一に戻つてそれを繰り返すようにしてもフラフラになるようなことはない。次に吸息と呼息の間



に止息すなわち息を止めたらどうなるかと調べてみると止息の間は肺のガス交換は止まることになる。ガス交換が止まれば血液はよごれ血液の循環が妨げられる。

長呼吸を行えば空っぽになつた肺腔には瞬時にして外気が吸ひこまれてきて交換所に達し、血液の酸素量を豊富にするこゝとなり、生体を構成する三十兆から五十兆におよぶ体細胞に活力を与えることとなる。脳細胞のはたきもよくなつて頭がよくなる好結果をも、もたらしてくる。以上の村木医師の呼吸法に照し、剣道における呼吸を考察してみますと剣道においては無意識のうちに長呼吸がなされているように思います。打突の際には腹の底から大きな長い声を出して、例えば「メン」と打ち込んで行くようにせよというのが現代剣道における共通の教えです。また、相手が息を吸うときは打突の好機とも教えられています。したがって息を吸うのに長い時間をかけていては打たれる機会を作つてやるようなこととなります。「メンッ」と息を止めて打つのは、生理的によくないばかりでなく葉のびもないこととなります。また、打返しの場合「メンッ」「メンッ、メンッ、メンッ」とひと息に打ち、打ち終わらざら大きく吸気をして最後の面打ち

「メン」とのびのびと大きく振りかぶつて打て、というのも自然のうちに調和息を行つていふことになると思ひます。

剣道をやるも頭がよくなるといわれていふのももつともではないでしょ。大きな懸け声かけると相手は萎縮し、自分分は勇気が出る効果があります。腹の底(丹田)から精一杯大きな懸け声を出すようにつとめようではありませんか。

### 記録

#### 少年剣道まつり大会

五月といへば青葉若葉の日の光と共にわが道場の剣道まつりのある月だ。恒例により五月五日、午前九時 各地域から集まつた少年剣士は三百余名、正面のステージに飾られた数々の賞杯、賞品に胸とどろかせながら入場、谷々々の賞杯、賞品に胸とどろかせながら入場、わが剣友会の会歌を合唱着席、紅会長が力強く言葉のあいさつ後昨年度の地区別対抗優勝杯の返還があつて演技に移る。プログラムは左の如し。

一、兎飛び競争(初心者) 二、防具着用競走(防具着用者) 三、互角模範稽古(高校生) 四、異種試合 五、学年別試合 六、地区別対抗試合。地区別の試合には多数来場の父兄方も応援されたが結果は優勝。大久保、別所チーム二位 芹々



三位 上永谷チームであったかくて演技は終り表彰に移る。優勝、優良賞、且つ又精勤賞等を受けた者百数十名のほり、楽しい一日を過ぎた。

#### ○ 関東小学生剣道大会

昭和五十年四月十三日、東京武道館に於て関東の小学生約三千人を集めて盛大な剣道大会が催された。我が会の出場者はよく善戦し優勝一、優良賞二を獲得した。

#### ○ 益利剣友会大会の記

月二十九日(祝日)益利谷剣友会では創

立一周年記念剣道大会を開催 わが会から三  
チーム(チーム五名)出場。最終にAチ  
ームが決勝戦に進み、日頃の練習の技倆を示し  
たが惜しくも優勝を逃し準優勝になった。

○四月二十七日 横浜市民総合体育大会  
が開催され我が剣友会出場選手のうち剣道部  
中学生の部で宇田正光君が優勝の栄誉を獲得  
飛鳥田市長から賞状を授けられた。

○ 剣道まつり大会寄附者芳名

- 丹羽善一殿 金五万円 佐々木武一殿 金五万円
- 遠藤正樹殿 金五万円 真剣道道具店 金五万円
- 阿彦栄一殿 金五万円 宇田正明殿 金三万円
- 田中圭三殿 金三万円 森田義雄殿 三万円
- 幸田 勝殿 金三万円 久保田文雄殿 三万円
- 鈴木芳和殿 金二万円 小野繁雄殿 二万円
- 長沢寛昭殿 金五百円 鈴木正徳殿 五百円
- 久和理秀典 金五百円 渡辺大輔殿 五百円
- 高橋文好 金一万円 荒川治雄殿 三万円
- 清酒各二本

- 鈴木清子殿 江尻弘子殿 阿彦よし子殿
- 鈴木和光殿 奈良梅枝殿 斎藤とも殿
- 杉山憲美殿 森田義雄殿 (ビール)

### 水戸選抜少年剣道 錬成大会の記

理事長 大井 忠 勇

(3) 三月二十九日晴春であるのに、薄ら寒  
さを感じるが少年達は元気で、つきつき  
に集まってきた。上大岡駅改札口、九時

三〇分、高橋会長が見送りに来て激励し



て、下された。少年諸君は元氣一ぱい出  
発横浜駅より京浜東北線にて一時間程度  
で上野駅着、休憩をして待った。十一時  
五〇分ひたち号が、十番ホームに滑る様  
に静かに入ってきた。ひたち号を、掃除  
をしてから乗車する。昼の弁当、駅構内  
にて幕の内弁当を各自に渡し車内にて、  
自由に食べさせる。少年達は特別指定席  
日頃、気の合った者達で席を取った。十  
二時十分ひたち号は出発した。水戸、直  
行電車で一時 十分水戸着、少年達は生  
れて、初めて見る水戸に眼を光らせてい

る。剣友会の旗を先頭に、改札口を出た。  
駅前には第十六回全国選抜少年剣道錬成  
大会と大きなアーチが建っている。少年  
達は、思わず声を上げ各自はなんとも言  
えない表情であった。先ず、由緒と伝統  
のある東武館道場へ、全国から集って来  
た少年剣士たちは胸を張って、つきつき  
と東武館道場の門を、くぐって稽古をし  
てもらおう。一時二〇分程度稽古少年達  
は汗をふきふき退場して来た。それぞれ  
稽古をして良かったと口々に言っていた。  
着替をすませ東武館長小沢 武(剣道九  
段範士)に御挨拶に、少年達は、勢揃し  
た。先生より今回は、扛 文吉先生とは、  
昔からの友達で、特別に参加出来る様に  
取扱った。諸君、頑張ってください。一人  
一人大きな声を張り上げ自分の氏名を申  
上げた。小沢範士と少年達は握手をした。  
加藤勢也君のカメラで、正門前にて写真  
を撮した。三時二〇分東武館出発して、  
水戸学問の藤田東胡先生の弘道館へ向っ  
た。見学を済ませて、水戸駅に徒歩十五分  
程度である。私達少年の宿泊隣駅の勝田  
駅前である。四時四十五分発、勝田駅に  
十五分で着いた。駅前には、東武館の人  
達が書類を持って待っている。親切に旅  
館の案内をしてくれた。旅館は鉄きん  
ンタリート三階建新築である。玄門の入

口には、磯子剣和会、松尾道場、公武会、港南剣友と貼紙がしてある。我々少年達は三階である。二室を取ることが出来た。各自、荷物を室に置き、入浴を取った。少年達はさっぱりした顔、赤びた顔、食堂に集った。夜七時食事が済み、各自室内で自由に遊んだ。少年達は、思う様に眠りに入れた。私もつかれたらしい十一時頃にもぐり込んで眠った。翌朝五時、かなり大きい地震があった。びっくりして目をさました。少年達は、誰れも気づかづ眠っている。六時起床、旅館いづみ荘に集った。すこし疊っている。六時十分、フットワークに森の中でラジオ体操をすませ、雨がぼつぼつ降って来たので、旅館に戻った。顔や手を洗って食堂で朝食の食事、少年達は大変に沢山食べた様子。旅館いづみ荘を七時三十分出発、勝田駅にて指定の定期バスが八時出発である。雨が、すこし強めに降って来た。予定どおり定期バスに乗った。少年達は剣道防具を背おいたバスに乗った。約二〇分程度で茨城県市民体育館前に着いた。大きな立派な館である。すでに入場式が始まっている。正面受付にて手続をすませ我が会の少年選手も、剣道防具姿になった。場内の三階右側前の観覧席を取った。場

では、全国のつうらうらから集った、勇しい姿で会場せまじと、列んでいる。大会会長の挨拶につき祝辞のお話があり、講話の有名な宝井馬琴さんの水戸光圀の話を終り試合開始十時四〇分である。第一回戦は各八会場、選手は大会会長の笛の合図で同時に始まった。我が剣友会は、第二会場六〇番目で埼玉県の行田剣友会の友達と勝負をする、時計は午後一時四〇分を廻った。我が選手は、全力を上げ精一杯の力を出さだけしほったが、残念三対二の決果で負けた。だが恥かしくはない、良く戦った立派なものであった。選手諸君は申訳ないと口々に言っていた。私は諸君に激励をした。いゝんだ。いゝんだよく戦った。気分直しにこれから借案張ってくれた。少年達は、剣道の防具を重く、園へ行く。市民体育館を後にして、水戸駅迄で徒歩で二〇分程度駅前の荷物一時預り所に、剣道防具や手荷物を預り、駅前からバスに乗車して三〇分程度で借案園に着いた。梅はやゝ散りかけている物もあつたが、後咲の梅もあつて、香り花の美で、沢山の観客で、にぎやかであつた。三時から四時迄一時間自由行動、借案園入口午後四時集合した。後、バスで水戸駅構内の食堂で少年達は、皆ん

な気が合つて大きな声でブランチャブランチャと注文した。午後五時二〇分食堂を出て、おもしろいにおみやげを、買った。午後五時四〇分集合、水戸駅の改札を入った。暫くすると特別急行ひたち号がホームへ、すべり込む様にして来た。少年達は、座席を取った。だいたいつかれた様子でも元気があつた。私は、ここで気合をぬいては大変、病人が出たらと思ひ一人一人に声を掛け今日の出来ごと又将来の剣道の話をした。やがて上野駅着午後八時十分頃であつた。上野駅から京浜東北線に乗替て一路横浜駅についた。

#### 【事務局から】

六月十五日 鶴見区剣道大会

七月二十日 港南区剣道大会

八月二十一日 関東小学生剣道研修会

八月四日 勝浦日本武道館研修セ

ンター一泊合宿練成

八月中旬 武山自衛隊合宿練成

#### ○剣道練習の休み

七月二十一日から八月末日まで、港南中学の体育館床張補修のため、剣道練習が出来ませんので木曜日は休みます。



# 港南剣友会報

50. 10. 1 号  
第 11 号  
高 橋 源 壽  
港南区大久保町143  
港南剣友会後援会  
(844) 3983

## 劍道 古 歌

- 氣は早く心は静か身は軽く  
目は明らかに業はほげしく
- 打つときは両の親指くすり指  
小指の三つでしぼる心地で
- 降ると見て傘とるひまもなかりけり  
川中島の夕立の雨
- ただ持つと打つとは握り違うなり  
よく見よみこの鈴の手元を
- 振りかざし打込む太刀の連れ足は  
波間に走る兔とや知れ
- 打ち合わす剣のもとに迷いなく  
身を捨てこそ生くる道あれ
- 執る太刀をしめずゆるめずやわからかに  
にぎれる人の太刀先を見よ

## 男谷精一郎信友

会長 杠 文吉

明治維新の夜明けを前にした幕末動乱時代にふさわしく名剣士が雲のごとく輩出した中で、私の敬慕してやまぬ剣士は、幕臣で講武所頭取の男谷（おだに）下聡守信友であります。そのわけは彼が人格高潔の君子人であると同時に剣の腕前において抜群のものがあつたからであります。一編の感があつたからであります。

その男谷は、寛政十年（一七九八）男谷新次郎信連の長男として江戸に生まれ、幼名新太郎通称誠一郎後精一郎と改名二十才の時同族の男谷彦四郎忠果のむこ養子となり、その次女をめとつた。勝海舟とはいとこに当る。小十人頭（二十一人一組）となつて將軍が外出するときの護衛役の隊長格で百俵高から昇進して書院番御徒士頭、講武所頭取兼劍術師範、講武

所奉行三千石の歴とした旗本にまで劍一筋で出世した英傑である。

彼は幼小から文武を好み、始め四谷の平山行蔵子竜について兵学と剣を学び、後文化十四年二十才の時本所亀沢町の直心影流田野源之進真帆素の門に入つて四年後にははやくも師にまさる腕前といわれるに至つた。平山門の四天王といわれた大先輩妻木辨之進と並んで「御府内兵法名人番付」に奨励とされた。そのため妻木から申し込まれて真劍勝負をしたこともあつたとのことである。残念ながらその結果について記したものは見当らないが恐らく引き分けに終り大事に至らなかつたのであろう。劍術のほか吉田流の弓術、宝蔵院流の槍術をも修得した。

始め麻布狹穴に道場を開き、後、団野の亀沢町の道場をついで直心影流十三代の家元となり、多数の子弟を教導した。門弟のうち諸侯家の師範役となつた者が二十余人の多きに上つたが、中でも劍道史に名を止めている者に島田虎之助、天野将曹、高柳又四郎、橋原健吉、三橋虎蔵、柏木大介、横川七郎などがある。

当時、直心影流では他流試合を厳禁していたが、彼は、自流内のみで互に腕を競うのも悪いとはいわれないが、見解が狭

くて進歩に限界がある。他流と渡り合つて彼の長をとり我が短を補うようにしなければ限界を踏み越えられない。このよ様な進歩的考え方で若い時から諸方の道場に行つて試合をして廻り、江戸中の劍士と手合せしない者はないほどであった。

一方、自分の道場へ全国から試合いを申し込んでくる者には一度も拒ばむことはなかつた。九州柳川（福岡県）の大石進が六尺有余の体で五尺余りの長竹刀をもつて江戸の各道場は勿論、千葉、桃井、齋藤をも総なめにした勢いにかけて試合いを申し込んで来たが、男谷は平素使ひなれた三尺八寸の太い竹刀を上段にとつて大石得意の突きを入れさせず常の通りにあしらつたので、流石の大石もその入神の技にかぶとをぬいでしまい、それ以後は交りをごうて自分の門弟を始め、同藩士に男谷に稽古をつけてもらうことをすすめた。これよりさき大石の長竹刀になやまされ各道場では、竹刀は長いが勝ちとして長竹刀の大流行となり千葉周作のごときは長竹刀の代りに四斗樽のふたを鏝にして大石と試合をしたとの流説さえも及び出す有様であった。男谷は、劍道が実用に過ぎることをなげき、講武所では三尺八寸に限ることと定

めた。世におもねらない、しかも男氣のある識見といふべきであらう。

天保の改革で名高い老中水野越前守は、武芸の奨励に熱心で役宅に都下の劍士を招いて試合をさせ、その人物技倆を見て抜てきすることとしたが、男谷の妙技技群なのを見て「男谷は天下の名人である」とほめたたえ家中の者の指南を托するに至つた。また、千葉周作のごとき在野中無敵の達人と評判をとつていたが、男谷との試合では打ち合せないうちに竹刀を打ち落されすつかり敬服してしまつた。

男谷も千葉を評して「あれだけに遣うには随分骨折つて修業したものであらう」といひ、知友の水戸藩の執政山辺主水正を通じて藩の劍術師範に推せんした。千葉が百石で水戸藩に召しかかえられ、北辰一刀流を普及させるようになったのは、男谷のこの推せんによるものである。

男谷はこれほどの名人であつたから、さぞかし千葉周作のような怪力の大男（手足をひろげるのと六畳の間一杯になつていう）かと思像されるでも色々伝わつてゐる。かと思像されるであらうが、さにあらずで並みの背だけで小肥りの温厚柔らかな人物であつた。稽古についても三

本勝負の初手の一本と終りの一本とはとるが中の一本は相手に花をもたせるようにし、相手の強弱にかかわらない試合い振りであつたから強さのほどがはかり知れないとの評判であつた。九州一円齒が立つ者が無いほどの島田虎之助が男谷との初手合せで易々と打ち込んで評判ほどでないといつたところ日を改めて二度目の手合せをしたときには、男谷にジリジリと詰められて手も足も出す羽目板を背負わされるに至り恐れ入つたしまつたといふ逸話からも実力のほどが察しられる。

大変に酒を愛したが、どんなに酔つても正氣を失うなどということがなく、翌日は早朝に起きて座敷を自ら清掃して香をたき、射場に立つて弓をひき、雨の日は読書にひとときを過ごして後朝食の膳に向うのがならわしであつた。また、妻子や召使いなどをついぞ叱るようなこともなかつた。楠公、諸葛孔明の誠忠を慕ひ、床の間にいつも孔明の肖像画をかけ、修身反省の姿とした。また、楠公を崇拜しては、楠公の好んだ備前景光の刀を求めたが得られず、景光の子の兼光は烈し過ぎるからといつて備中青江恒次を指料とした。弘化二年四十七才の時妻を失つてからは後添えをもらわず長年召使つて



きた下男の清助なる者に家事一切をまかして日をおくつた。再三にわたり再婚をすめる者があつたが、楠公には正室のほか愛婦がなかつたのをみならうのであるといつて固くことわり通した。武士のたしなみて刀剣を愛蔵したがそのほかの武器も数多く備蓄して不時にそなえることを怠らなかつた。時に閑暇つれづれの折には静斎または蘭齋と号して山水花鳥を描きあるいは書をかくなど風雅の趣味ももつていた。剣におとらず学を好んで時勢を見る目が高かつたことは、海舟に蘭学を修めて航海の術を学ぶようにとすすめたことからもうかがうことができる。天保二年から死に至るまで日記をつけることを一日も怠らず数十巻に達しているとのことで、かねてモットーとしていた克己を實踐した結果といふことができよう。以上の行実に見られるように古今稀に見る人物でありながら世上に喧伝されないでいるのは、人物が地味で謙譲の得を守り、虚名をきらつたことによると思われれる。

元治元年(一八六四)病を得て死去し、浅草増林寺に葬られた。

臨終に際し左の詩句をのこした。

堪笑六十七年夢。戲染一場悲歎空。

安命何憂生亦死。喬松明月有清風。  
うけえたる心のかよみ影さよく  
けふ大空にかへるうみ影さよく

(註一) 大日本人名辞書に男谷忠友氏稿として文化七年生れとしているが、歿年については同書も元治元年としている。前記の遺句のほか「不如学」六十七翁静斎とした書も残っていることから寛政十年生れが正しい。山田次朗吉著日本剣道史には増松寺とあるが増林寺が正しい。

なお、日本歴史大辞典、日本史辞典、横山健堂書日本武道史は大日本人名辞書の孫引きで生年の誤りをおかしている。(註二) 百俵は一俵四斗で四十石であるのと比べ三十石がいかに大量であるか、柳生宗矩は格別剣一筋では古今に例を見ない異例の出世であることがわかる。

(註三) 高柳又四郎は戸田流、三橋虎蔵は伊庭軍兵衛の甥で心形刀流として講武所剣術教授方に名をつらねているところから察するには兩人共に男谷の準門人といふことになるようである。

「記念品の手拭の文字」

### 「劍徳照世」について

会長 紅 文吉

日本では古来「劍」を神靈の宿るもの

として絶大の尊敬をささげてきました。劍の威徳の最大なものだとされているのは、天照大御神から歴朝伝来されてきた天叢雲劍(あめのむらくものつるぎ)であります。この劍は、皇位のしるしとして三種の神器の一つとなっております。

日本武尊(やまとたけるのみこと)が、東征にあたって伊勢皇大神宮に参拝された折りにその祭主倭姫(やまとひめ)からこの神劍を授けられました。尊が、駿河(静岡県)の草原(清水市近くの草薙、一説には焼津)で賊徒から火を放たれ危く命をおとされようとした時にこの劍をもつて草を薙ぎ払い火難をまぬかれられました。それ以後草薙劍と改称、尊崩去後その紀のみやすひめのみことよつて熱田神宮の神体として祭られました。中国においても武に七徳(禁暴、戢兵、保大、定功、安民、和衆、豊財)ありといつています。武の中心が劍であることから、武徳即劍徳と言いかえてもよいと思えます。

劍が各地の神社に奉納されて宝劍とされてくる例は、皆さんもご存知のことと思えます。

劍聖宮本武蔵は五輪書にいう。

「太刀の徳よりして世を治め、身を修む

る事なれば、太刀は道法の終る所なり」  
 劍徳世を照らし、明かるい世の中にな  
 ることを念願して、それこそ恥かしなが  
 ら拙筆を染めた次第です。

### 記 録

#### ○港南区青少年剣道錬成大会

恒例の大会が七月二十日(日)午前九  
 時から横浜刑務所斉信館道場で催された。  
 我が会から小学生、中学生の部に一チー  
 ムずつ出場、日頃の錬磨の技術を發揮し  
 て善戦した結果次の成績を取めた。

- 二位 幸田 隆 小学五年
- 三位 佐藤哲郎 小学五年
- 四位 花井達人 小学五年
- 五位 宇田正光 中学一年
- 六位 高橋健二 小学二年

#### ○関東小学生剣道研修大会

八月三十一日(日)第一回の首題の大  
 会が東京武道館で開催されわが会から出  
 場、六時半に上大岡駅に集合、木梨、石  
 渡、伊藤先生に引卒されて多数の少年剣  
 士に交って善戦したが最終的には賞杯を  
 逸した。

#### ○日野地区剣道錬成大会

日野剣道教室、野庭剣友会共催で第一  
 回少年剣道錬成大会が九月七日十二時か  
 ら日野剣道教室で開会された。わが会か  
 ら宇田正光、宮本修治、坂庭顕次、杉山  
 正幸、佐藤哲郎、幸田隆等粘鋭が参加出  
 場、隣接区内の道場選抜選手と試合をし  
 た。

わが少年剣士は日頃の錬磨の技術を発  
 揮し、全員勝ち抜いて「優勝」の栄冠を  
 得た。

#### ○鶴ヶ峯剣友クラブ剣道大会

九月二十四日午前九時から旭区鶴ヶ峯  
 小学校体育館で開催された。わが会から  
 宮本修治、久岐利雄、花井達人、小島裕  
 一、加藤勢津也、宇田正光、等が出場、  
 善戦して好成績を取めた。

#### ○勝浦剣道合宿の記

今年の夏は雨が降り後三週間も陽でり  
 が続いたが年中行事の一つである合宿錬  
 成の初日もかんかん照りの暑い日であつ  
 た。

八月四日、われわれは午前八時港南郵



便局前から観光バスに乗って千葉勝浦へ  
 と出発した。総勢父兄とも五十四名。  
 午前十時半 久里浜に着いてフェリー  
 ボートに乗り込む。秋を思わせる雲の流  
 れ、蒼い海、近くは三浦半島、遠くは房  
 総半島が墨絵のように見える。富士山の  
 姿がくっきりと雲間に浮ぶ姿を指して、  
 都塵を離れてゆく少年たちには訳もなく

喜んだ。

十一時、千葉領内金谷に着く。金谷から再びバスで勝浦に向う。山間の舗装された路を走る。ところどころ、わらぶき屋根の家もあり、だんだん畑もある。

日蓮上人が誕生した小港の史蹟を訪ねるよしもなく一路勝浦に向う。後一時半、研修センター着。四方の景色を眺めながら昼食をとる。

午前三時半、防具を着用して千疊敷の道場に集合、静座、石渡先生、栗原先生、奥田先生の指導にて練習。気合も一段と高まり気魄堂に満つといった練習振りに合宿に参加した甲斐も知らされた。

この日、カナダ、オランダ、ベルギー、オーストラリア等々から二週の前定で来日した外国人剣士が熱心にわが少年たちの練習振りを見ていたが、剣道も国際的になった感じで礼儀を知るこれらの選手に敬意を表した。

五時入浴後夕食、附添ったお母さん達五六人、配膳やら盛りつけやらで忙がしく立働らいてくださった。いつの時でも母親の存在は大きく、その心は尊い。

夕食後小憩のあと我々は宿舎の前にある市営グラウンドに集合した。花火大会を催す為だ。

花火は面白かった。夏の夜にかかせぬ風情の一つでもある。九時宿舎にて自由時間、十時消燈、二段ベットから落ちた寝ぞうの悪い少年もいたが、疲れたであろう少年たちは、大抵は楽しい夢の夜を過したことである。

翌五日、六時起床、グラウンドでフットワーク、ラジオ体操など実施今日も青い



空、美しい陽の輝き、すがすがしい朝の空気が、われわれは元氣更に溢れて朝食後再び道場へ。十時バスで近くのおんじゆく海岸に行く。水遊び、波に戯れてズボンぬらした少年剣士も着替えにまよっていた。

やがて奥田先生が運んでくれた大きなスイカを砂浜で「西瓜わり」を始めた。声援が賑やかだ。笑声も大きい。通りがかりの海水浴客もこの無邪気な情景をたのし気に眺めていた。

正午、宿舎にて昼食後、再びバスで往路と同じ路を走る。ガイドさんが少年たちをたいくつさせぬようクイズを交したり、歌ったり車中賑やかに三時間余を過し大久保町に帰った。時に四時。

この二日間教士たちは事故一つ、病人一人なく無事に今年の夏の行事を成功裡に了ったのを喜んだ。

#### ○夏の慰霊祭奉納試合

わが剣友会では毎月五日の慰霊祭が行われる日が、日曜日等学習に支障ないに限り県慰霊堂前で奉納の試合を行っている。

本年は八月五日が該当する日であるが、

夏休み中なので出席者は少なかったが、紅会長、木梨先生などで予定通り参拝、試合等が行われた。この少さな集りにも遺族の方々が終りまで観覧して拍手を送ってくくださったのには一同感激した。

### ○暑中けいこ（早起会）

八月一日から五日まで、毎朝六時から一時間 先生方の指導で 早朝けいこを行った。バスが無くて来られない少年たちもいたが、防具を荷って 歩いて通った少年もいた。実力を養うにふさわしいけいこもなつたことである。

皆出席の剣士六十余名に、賞状、賞品が与えられた。

### ◆◆◆◆◆

### ○慰霊堂前奉納試合

十月五日（日）十時三十分から 剣道練習後 参拝 奉納の試合を行います。

### ○第六回少年剣道錬成大会招待

十月二十六日（日）午前九時から桜岡小学校体育館で行われます。一年間練習に励んだ成果を、多数の来賓、父兄にこ

披露する大会で、参加者一同には手拭、弁当、記念品、又個人、団体及び招待對抗試合に優秀優良の成績をあげた者に対する賞品賞状が授与され、その他初心者も加えた精勤者には奨励賞が渡されます。父兄の方々も少年剣士の激励にご出席ください。

### ○寄 附（七月以降九月中旬まで）

高沢正芳殿 一〇、〇〇〇—  
小倉芳雄殿 五、〇〇〇—  
須賀伸一殿 二、〇〇〇—  
中島 旻殿 五、〇〇〇—  
北見琢也殿 二、〇〇〇—

### ○港南中学体育館新装なる

九月から新装なつた体育館で剣道練習するのが火曜日六時三十分からとなりました。父兄も使用上の注意にご協力ください。

一、椅子テーブルは床板を傷つけぬよう静かに取扱ってください。

二、スリッパは使用しない。

三、練習後は掃除。清潔整頓を保つよう  
四、トイレの使用は備えつけのスリッパを使用すること。  
以上

### ○父兄欄「剣道有縁」

優勝杯の行くえ

高橋生

春の剣道まつり、秋の錬成大会には、横浜ライオンズクラブ、横浜リナイ、ライオンズクラブから寄贈された大トロフィーを優勝者は持廻りて授与される。私はそれら優勝杯を手にした少年剣士たちのその後を追跡し精武の状態をたづねた。ある者は有名校に入つて剣道に精を出し、ある者は今春全校生徒代表となつて卒業したり、引きつづき剣道を努力している。更らに学業の成績はどうかというにこれ又極めてよいのに気づいた。剣道に優れた者が学業にも優秀であるというこの事実は文武不岐の精神を会得していることか。私は更に探究する興味を持つてゐる。

鈴木清子

○雑巾がけはいかゞ  
剣道の練習をつみ重ねることによつて学校や家庭とはちがつた礼儀作法などにわが家の子供は成長しました。敬う心豊かな気持ちが自然に身について、これからの人生に活かされるを信じています。それにしても、その日の勤めを了えられ、疲れも顧みず道場で汗を流してご指導くださる先生方に頭がさがります。閑話休題、あの雑巾がけなどはじめてのこととは思いません。